

タイトル	生活時間統計の国際比較からみたフルタイム労働者のワークライフバランス：CTUR によるMTUS ミクロデータと「社会生活基本調査」との比較
著者	水野谷，武志；MIZUNOYA, Takeshi
引用	季刊北海学園大学経済論集，62(4)：151-182
発行日	2015-03-31

《論説》

生活時間統計の国際比較からみた フルタイム労働者のワークライフバランス

— CTUR による MTUS ミクロデータと「社会生活基本調査」との比較 —

水野谷 武志

目次

1. はじめに
2. 生活時間の国際比較統計の整備動向
 - 2.1 HETUS プロジェクト
 - 2.2 CES の統一生活時間調査ガイドライン
 - 2.3 CTUR の MTUS
 - 2.4 UNSD における ICATUS とガイドブック
 - 2.5 小括 — 国際比較統計の利用の方向性について
3. MTUS と「社会調」の国際比較方法
 - 3.1 比較に際して重視する点
 - 3.2 生活行動分類の組替え
 - 3.3 集計する曜日と指標
4. 比較結果図
 - 4.1 総平均時間量
 - 4.2 総平均時間量の男女差
5. 結論
 - 5.1 比較方法論について
 - 5.2 比較結果について

参考文献

付表 MTUS と「社会調」との比較結果表

1. はじめに

本稿の目的は、生活時間統計の国際比較に関する動向を検討した上で、オックスフォード大学社会学部付属生活時間研究センター (Centre for Time Use Research: CTUR) の「多国間生活時間研究 (Multinational Time Use Survey: MTUS)」によるマイクロデータに注目し、日本をふくむ6カ国のフル

タイム労働者の生活時間について1980年代以降の推移を国際比較することによって、比較方法の長所及び問題点を明らかにするとともに、日本のフルタイム労働者のワークライフバランス (WLB) の特徴を検討することである。

経済のグローバル化と不安定化が進行する中で、「ディーセントワーク」を確保しつつ、それを生活全般の諸活動とどのようにバランスをとっていくのか、つまり WLB 社会の達成は、国内外において引き続き重要な社会的課題となっている。特に、非正規雇用の拡大と正規雇用者の長時間労働問題を抱える日本にとっては、この問題への強い取り組みが必要とされている。また、WLB 社会の実現にとって男女平等をふくめた社会格差是正の視点が欠かせない。「ディーセントワーク」を掲げる ILO でもその実現に向けた分野横断的視点の1つとして男女平等が主張されてきた。日本の WLB の現状を把握し、今後の政策に生かすための最有力のツールとして生活時間統計がある。さらにそれを国際比較することは、日本の特徴を明確にし、その特徴の背景・原因を考え、そして今後の対策を検討する基礎資料となるので、必要不可欠な作業である。にもかかわらず、日本をふくめた生活時間の国際比較研究がそもそも少ないことや、国際的な統計の制約によるところが大きいが、単年による国際比較が多く、経年変化

を捉えうる国際比較統計が従来研究で十分に示されていない。水野谷(2013)は日本をふくめた生活時間統計の国際比較の可能性について検討しているが、比較可能性の方向性を指摘するにとどまっており、実際に統計を利用してその方向性について検討しているわけではない。

そこで本稿では、生活時間の国際比較統計として有力とみなされるMTUSを使い、対象をフルタイム労働者に絞り、1980、1990、2000年代の3時期の男女別生活時間統計、具体的には総平均時間統計を作成する。日本については総務省統計局「社会生活基本調査」(「社会調」)を使用するが、MTUSと比較可能とするために新たな生活行動分類も作成する。

以下ではまず、生活時間の国際比較統計に関する整備動向及び利用可能性を検討した上で、本研究の国際比較方法の詳細を説明する。そして、作成した比較図を提示し、読み取りうる点を指摘した後に、本研究の比較方法論と比較結果についての結論を述べる。

2. 生活時間の国際比較統計の整備動向

生活時間調査が国の統計機関で実施され始めるのは国際的には1980年代以降であり、他の社会・経済統計に比べて歴史的には浅いが、各国あるいは国際機関は国際比較統計の整備に向けて注目すべき取り組みを実行してきた。最近の整備動向として注目すべきは①欧州連合統計局(Eurostat)の欧州統一生活時間調査(Harmonised European Time Use Survey: HETUS)プロジェクト、②国連欧州経済委員会(United Nation Economic Commission for Europe: UNECE)・欧州統計家会議(Conference of European Statistician: CES)の統一生活時間調査ガイドライン、③CTURのMTUS、④国連統計

部(United Nations Statistical Division: UNSD)の国際生活時間行動分類(International Classification of Activities for Time-Use Statistics: ICATUS)とガイドブック(2005年発行)である。なお、①～③については水野谷(2013)で詳細を述べているので、ここではその要約を示し、新たに④を加筆する。

2.1 HETUSプロジェクト

1960年代以降、欧州のいくつかの国で独自に実施されてきた生活時間調査についてその調査方法及び作成統計を調整・統一し、欧州連合関係国に普及させるために1990年代から始まったEurostatのプロジェクトである。EurostatはHETUSガイドラインとして2000年版(Eurostat 2000)とその改訂版である2008年版(Eurostat 2009)を発行した。そしてHETUSガイドラインに準拠した国の比較結果が2003年から順次公表された(Eurostat, 2003, 2004, 2005, 2006)。さらに、2000年版ガイドラインに準拠して2000年前後に実施された15カ国の生活時間調査(「2000年ラウンド調査」)のデータベース(HETUSデータベース)をEurostatが2008年に公開した。このHETUSデータベースでは利用者が変数を選んで独自の集計表を作成できる、リモート集計方式(ただし簡単な利用申請が必要)が採用されている。2000年版HETUSガイドラインにこのHETUSデータベースについての説明が加筆されたものが2008年版ガイドラインであった。2008年版ガイドラインに準拠して2010年前後に実施された「2010年ラウンド調査」を加えたデータベースが現在準備中だが、その公開は2016年頃の予定である。

2.2 CESの統一生活時間調査ガイドライン

CESは、生活時間統計が様々な分野の政策立案において重要性が増しているという認

識の下で、生活時間調査を実施する国を支援し、その調査結果の比較可能性を高めるためにガイドラインを作成しようと2010年に議論を開始し、特別調査委員会(Task force on time use surveys)での検討を経て2013年12月にガイドラインを公表した。諸政策との関連で生活時間統計の重要性を説明した上で、調査方法及びデータの集計・配付等についての論点整理と推奨事項を掲げ、今後の課題を提示している。上述した2008年版HETUSガイドラインや後述する国連統計部のガイドブック(UNSD 2005)を補完するものであり、特に2008年版HETUSガイドライン以降の欧州を中心とする最新の議論や関心を受けて新たなガイドラインの作成が求められたと思われる。さらに、CESガイドライン作成には欧州諸国はもちろんのこと米国労働統計局、カナダ統計局、オーストラリア統計局、日本の総務省統計局、国際機関からはOECDが関わっている。その意味でCESガイドラインはこの10年ぐらいいおいて欧米先進国で積み重ねられてきた経験と諸議論の1つの到達点とみなしうるので、現時点における国際的ガイドラインとして最も有力な資料である。

2.3 CTURのMTUS

MTUSは、1960年代にサーライによって実施された生活時間の国際比較調査プロジェクト(Szalai, eds. 1972)のマイクロデータを保存・活用するために1980年代中頃に持ち上げられたプロジェクトで、その後も多くの国の生活時間マイクロデータを収録し、研究者を中心に広く利用希望者にマイクロデータを提供している。最大の特徴は、①収録している国と調査年の数(現在23カ国、国によっては複数年実施された調査が収録されているので、単純に調査年の数を足すと44)の点で生活時間統計における世界最大規模の集積及び提供の拠点、②提供される統計は、生活行動分

類をふくむ独自に開発された各種分類にもとづいて各国データを統一分類で再構成したマイクロデータであり、様々な研究視角で国際比較研究に取り組んでいる統計利用者にとって貴重な存在となっている点である。表1はMTUSが収録する国と調査年の一覧である。MTUSが提供するマイクロデータには3種類ある。1つ目はHarmonised simple file(HSF)で、25の行動分類別の合計時間データ、2つ目はHarmonised aggregate files(HAF)で、18歳以上と未満の2つのデータについて69の行動分類別の合計時間データが様々な属性変数も追加された形のデータ、3つ目はHarmonised episode file(HEF)で、18歳以上と未満の2つのデータについて69ないしは41の行動分類によるエピソードデータ(すべての行動についてその行動の種類と開始時刻と終了時刻がまとめられたデータ)である。この3種類のうちのどのデータが収録されているかは国によって異なる。

2.4 UNSDにおけるICATUSとガイドブック

1995年に北京で開催された第4回世界女性会議で「行動綱領」が採択され、そこで生活時間統計及び生活行動の国際分類開発の重要性が提起(「行動綱領」第IV章戦略目標H.3.)されたことを契機にUNSDでは生活時間に関する統計活動が本格化した。UNSDは専門家会議を1997年、2000年、2012年に開催し、そこでICATUSが提案されてきた。ICATUSの経緯と評価については中山(2014)が参考になる。また、2000年の専門家会議の議論を受けて生活時間統計を作成するためのガイドブックが2005年に公表された(UNSD 2005)。ICATUSの特長の1つとして、国民経済計算体系(System of National Account: SNA)との整合を重視している点がある。最新のICATUSの2012年版は2008年に国連統計委員会で採択された

表1 MTUSの収録データ一覧

国	調査年
オーストリア	1992
オーストラリア	1974, 1987, 1992, 1997, 2006
ベルギー	1965
ブルガリア	1988
カナダ	1971, 1981, 1986, 1992, 1998
デンマーク	1964, 1987, 2001
フィンランド	1979, 1987-88, 1999-00
フランス	1966, 1974-75, 1998-99
ドイツ	1965, 1991-92, 2001-02
ハンガリー	1965, 1976-77
イスラエル	1991-92
イタリア	1979-80, 1989, 2002-03
オランダ	1975, 1980, 1985, 1990, 1994, 2000, 2005
ノルウェー	1971, 1981, 1990, 2000
ポーランド	1965
チェコスロバキア	1965
韓国	2009
スロベニア/ユーゴスラビア	1965, 2000
南アフリカ共和国	2000
スペイン	1992-93(バスク), 1997-98(バスク), 2002-03(全国, バスク), 2008-09(バスク), 2009-10(全国)
スウェーデン	1991, 2000
英国	1961, 1974-75, 1983-84, 1987, 1995, 2000-01, 2005
米国	1965-66, 1975-76, 1985, 1992-94, 1994-95, 1998-2001, 2003-12

出所：Fisher and Gershuny (2013) より抜粋。

2008 SNA に対応すべく改訂されたものであり、さらに 2013 年に ILO の国際労働統計家会議で採択された「仕事、就業及び不完全就業の統計に関する決議」を受けて、2012 年版が現在修正され、まもなく最終版が公表される予定である。

2.5 小括 — 国際比較統計の利用の方向性について

現状において国際比較可能性が最も高い統計は HEUTS データベースと言えるだろう。HETUS データベースは、各国の生活時間統計を単に収集して提供しているわけではなく、Eurostat が作成した HETUS ガイドラインにもとづく調査方法を濃淡の差こそあれ採用した国の統計を収録している。いわば「事前調整」が施された国際比較統計である。

さらに、HETUS ガイドラインに定められた HETUS データベースによって統一された様式による統計を利用者に提供している。これは「事後調整」といえるだろう。ここで「統一された様式による統計」とは、単に集計項目が統一された統計だけではなく、利用者のニーズに合わせたクロス集計表（いわゆるリモート集計）も利用申請を前提に提供していることを意味し、優れている点と言えよう。「事前・事後調整」の両方を兼ね備えた生活時間統計の国際比較可能性は高い。現状では国際的に HETUS データベースだけがこれに該当する。しかし現時点では「2000 年ラウンド調査」のデータしか提供されておらず、「2010 年ラウンド調査」のデータが利用できるのは 2016 年の予定であり、調査実施からデータ利用まで時間がかかることが難

点である。

MTUSは多くの収録国の比較的直近のデータをふくみ、さらに統一分類によるマイクロデータを提供している点から、HETUSデータベースを補う、あるいはそれに代わる統計として注目すべきである。しかし統一分類はあくまでも「事後」調整であり、各国の調査方法の違いや統一分類への再構成の妥当性には注意を要する。

USNDの活動は生活時間調査を今後実施しようとする発展途上国を念頭におき、さらにICATUSに見られるようにSNAとの整合性を重視している。日本のWLBの状況を他の先進諸国との比較によって確認しようとする本稿の問題意識とは離れるが、世帯サテライト勘定のようなSNA視点の研究、あるいは発展途上国と先進国の比較研究にとってUNSDの活動は今後有効になってくるかもしれない。

CESガイドラインは生活時間統計の作成に関する国際的な経験と知識の集約として重要文献ではあるが、これが各国に今後どのように受け入れられていくのかは未知数である。CESガイドラインがHETUSガイドラインの今後の改訂(2020年調査ラウンド)に影響を与える可能性はある。日本でも2014年3月に閣議決定された「公的統計の整備に関する基本的な計画の変更について」、いわゆる「第II期統計基本計画」においてCESガイドラインを2016年実施予定の「社会調」の参考にすることが明記されている。「社会調」との比較を考えた場合、「社会調」はすでにHETUSとの比較を念頭に新たな調査方法や集計を導入してきた。HETUSと「社会調」を使った国際比較研究もあるが(水野谷2009, 内閣府経済社会総合研究所編2011)、「2000年ラウンド調査」のデータ利用にとどまっている。「2000年ラウンド調査」のデータしか当分利用できないことを考えると、「社会調」とMTUSとの比較を検

討する意義は小さくないだろう。

3. MTUSと「社会調」の国際比較方法

上記の意義があるにもかかわらず、管見ではMTUSと「社会調」の国際比較はないと思われる。そこで、試みの域を出るものではないが筆者の考える比較方法について説明する。

3.1 比較に際して重視する点

第1に、MTUSと「社会調」の複数年比較を試みる。これまでの生活時間の国際比較研究の多くが単年比較にとどまっており、比較的最近(2000年代)までのデータを収録するMTUSを利用することによって複数年の統計を用意し、生活時間配分の時系列的な変化傾向を把握できうるからである。

第2に、日本との比較で示唆を得る試みとして比較社会政策学で展開された資本主義経済諸国における福祉国家のタイプ分けを参考に、異なるタイプ、具体的には自由主義型(英国, 米国), 社会民主主義型(ノルウェー), 保守主義型(ドイツ), 家族主義型(イタリア)に属する国を選ぶ。多くの収録国を有するMTUSだからこそベストではないが該当国をなんとか選ぶことができる。

第3に、対象国と調査年について、英国(1987, 1995, 2005年), 米国(1985, 1995/95, 2005年), ドイツ(1991/92, 2001/02年→1980年代は調査未実施のためデータなし), ノルウェー(1980/81, 1990/91, 2000/01年), イタリア(1979/80, 1989, 2002/03年), 日本(1986, 1996, 2006年)を設定する。MTUS収録データの中で1980年代・1990年代・2000年代の3つの時期にデータが存在し、さらに福祉国家タイプに該当する国として上記5カ国を選ぶ。表2に対象国の調査概要を示す。

表2 本研究で使用する MTUS データの調査概要

	調査年	対象年齢	標本の 大きさ	調査対象期間 (月数)	回収率	日記記入 日数	日記のタイプ	最小時間 単位	世帯員調 査の有無
英国	1987	16+	3035	1	70.0	7	自計式	15分	有
	1995	16+	1875	1	93.0	1	自計式	10分	無
	2005	16+	4941	10	59	1	自計式	10分	無
米国	1985	12+	5358	12	55.2	1	他計式(電話)	自由	有
	1994/95	18+	1199	13	64.6	1	他計式(電話)	自由	無
	2005	15+	26300	12	56.6	1	他計式(電話)	自由	無
ドイツ	1991/92	12+	7200	4	割当法	2	自計式	5分	有
	2001/02	10+	11919	12	95.5	3	自計式	10分	有
ノルウェー	1980/81	16-74	3307	12	65.0	2	自計式	15分	無
	1990/91	16-79	1813	12	64.0	2	自計式	15分	無
	2000/01	9+	2204	12	50.0	2	自計式	15分	有
イタリア	1979/80	不明	3896	不明	不明	1	自計式	不明	有
	1988/89	3+	38110	12	70.0	1	自計式	自由	有
	2002/03	3+	55773	12	91.8	1	自計式	10分	有
日本 (調査票A)	1986	15+	240000	1	不明	2	自計式	15分	有
	1996	10+	270000	1	不明	2	自計式	15分	有
	2006	10+	190000	1	不明	2	自計式	15分	有

出所：Fisher and Gershuny (2013), Table 1.2 より抜粋して筆者が作成。

第4に、対象者をフルタイム労働者(週35時間以上働く就業者で自営業者をふくむ。ただし日本は「正規の職員・従業員」)に限定する。雇用形態が生活時間に与える影響が大きいので、本研究ではフルタイム労働者に限定したい。

第5に、MTUSの中で具体的に使用するデータはHSFである。MTUSの中で最も多くの国で収録されているデータの種類であり、本研究の対象国と調査年をカバーできるのはHSFだからである。ただしHSFはHAFに比べると行動分類が25と少なく、含まれる属性データも少ないのが制約となる。

3.2 生活行動分類の組替え

MTUSのHSFの行動分類数は25、「社会調」(調査票A)は20である。この2つを比較可能とするために、2つの行動分類を組替えて、新しく15の行動分類を作成する。

表3-1は2つの分類を単純に横並びにしたものである。表3-2は、分類数の少ない「社

会調」に合わせMTUSをひとまず組替えたものであるが、HSFを「社会調」に完全には合わせられない難点がある。HSF分類の項目の中に「社会調」分類の2つの項目にまたがってしまうものがある。例えば、HSFの「13 physical, medical, supervisory, routine child care」は「社会調」の「10 介護・看護」と「9 育児」にあたる。したがって20分類よりも粗い15の行動分類とした。表3-3は15の行動分類による組み替え結果である。この粗い新分類の限界としてまず、新分類の「世話」、「教育」、「余暇など」は、かなり異質な行動を大きくりにしている点がある。また、HSFと「社会調」の分類の中にそもそも合わない項目がかなりある。例えばHSFの「1 Sleep」には「nap」が含まれるが、「社会調」の「1 睡眠」には「昼寝」は含まれず、「社会調」では「昼寝」は「13 休養・くつろぎ」に含まれる。このような例があるので新分類とHSF及び「社会調」の分類にはズレがある。

表 3-1 MTUS・HSF と社会調 (調査票 A) の行動分類

MTUS・HSF (25 分類)	「社会調」(20 分類)
1 Sleep and naps	1 睡眠
2 meals or snacks	2 身の回りの用事
3 wash, dress, care for self	3 食事
4 paid work and related activities	4 通勤・通学
5 schooling, education, homework	5 仕事
6 food preparation, cook, wash/put away dishes	6 学業
7 cleaning, laundry, regular housework	7 家事
8 maintain home/vehicle, including collect fuel	8 介護・看護
9 purchase goods, consume services	9 育児
10 gardening/pick mushrooms	10 買い物
11 pet care (including walk dogs)	11 移動 (通勤・通学を除く)
12 look after adults needing help or care	12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌
13 physical, medical, supervisory, routine child care	13 休養・くつろぎ
14 play/sports with, read/talk to child, help with homework	14 学習・研究 (学業以外)
15 worship, religion, and prayer	15 趣味・娯楽
16 voluntary, civic, organizational act	16 スポーツ
17 travel to/from work or education	17 ボランティア活動・社会参加活動
18 other travel	18 交際・付き合い
19 sport or exercise	19 受診・療養
20 watch television, listen to radio	20 その他
21 read	
22 e-mail, web, program, computer games	
23 cinema/theatre, sport match, away from home leisure	
24 other free time leisure	
25 no activity reported	

出所：MTUS は Fisher and Gershuny (2013), Table 3.1 より抜粋。

3.3 集計する曜日と指標

曜日については平日 (月～金曜)、土曜日、日曜日の別に集計する。フルタイム労働者の生活時間パターンはこの3区分によって大きく異なるからである。またこの3区分は従来の国際比較研究でも必ずしも重視されてこなかった。

本稿で扱う指標は行動分類別の総平均時間 (ある行動における全対象者一人当たりの平均時間) である。生活時間における基本指標には総平均時間、行動者率 (全対象者に占めるある行動をした対象者の割合)、行動者平均 (ある行動における当該行動をした対象者一人当たりの平均時間) の3つがある。3つを総合的に分析するのが望ましいが、本稿で

は総平均時間だけを取り上げ、3指標による総合的な分析は他の機会に譲る。なお、3指標の集計結果を付表1～9として掲載する。

4. 比較結果図

総平均時間の集計結果は付表1～3であるが、表が大きすぎて読み取るのに困難を伴う。そこで、15の行動分類を「有償・無償労働」、「生理的活動」、「余暇活動」の3つに分け、それぞれについて図に表し、数値的な比較結果を述べる。また、男女差について読み取り易くするために男女差の図も作成する。

表3-2 「社会調」に合わせてMTUSの分類を組替える

「社会調」(20分類)	組替え後のMTUS・HSF(25分類)
1 睡眠	1 Sleep and naps
2 身の回りの用事	3 wash, dress, care for self
3 食事	2 meals or snacks
4 通勤・通学	17 travel to/from work or education
5 仕事	4 paid work and related activities
6 学業	*5 schooling, education, homework
7 家事	6 food preparation, cook, wash/put away dishes 7 cleaning, laundry, regular housework 8 maintain home/vehicle, including collect fuel 10 gardening/pick mushrooms
8 介護・看護	12 look after adults needing help or care ***13 physical, medical, supervisory, routine child care
9 育児	***13 physical, medical, supervisory, routine child care 14 play/sports with, read/talk to child, help with homework
10 買い物	**9 purchase goods, consume services
11 移動(通勤・通学を除く)	18 other travel
12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	20 watch television, listen to radio 21 read
13 休養・くつろぎ	****24 other free time leisure
14 学習・研究(学業以外)	*5 schooling, education, homework
15 趣味・娯楽	11 pet care (including walk dogs) ****22 e-mail, web, program, computer games 23 cinema/theatre, sport match, away from home leisure
16 スポーツ	19 sport or exercise
17 ボランティア活動・社会参加活動	16 voluntary, civic, organizational act
18 交際・付き合い	****22 e-mail, web, program, computer games ****24 other free time leisure
19 受診・療養	**9 purchase goods, consume services
20 その他	15 worship, religion, and prayer 25 no activity reported

注：*は2回出現している分類。

4.1 総平均時間量

「有償・無償労働」について男性を図1-1～1-3、女性を図1-4～1-6に、「生理的活動」について男性を図2-1～2-3、女性を図2-4～2-6に、「余暇活動」について男性を図3-1～3-3、女性を図3-4～3-6に掲載する。

日本・男女・平日の「有償労働」時間(「有償の仕事」+「通勤」)はこの20年間で横ばいかむしろ微増である。「労働力調査」の週労働時間統計ではこの20年間でかなり減少(非農林業雇用者の週間就業時間は1985年と2005年において男性50.9時間→46.7

時間、女性41.7時間→35.2時間。ただしこの減少の多くは短時間・非正規雇用者の増加による影響が大きいので単純には比較できない)したが、それは土曜の「有償の仕事」の総平均時間(及び行動者率)が減ったことが大きい。平日の「有償の仕事」時間は20年前と変わっていない可能性が高く、これは矢野編(1995)や黒田(2011)などで既に指摘されてきた点でもある。

国際比較においても、日本・男女の有償労働時間が突出して長いことはこの20年間で基本的に変りない。土曜日は減ってきたと

表 3-3 MTUS と「社会調」を組替えた新分類

「社会調」 (20 分類)	組替え後の MTUS・HSF (25 分類)	新分類 (15 小分類)	新分類 (4 大分類)	
1 睡眠	1 Sleep and naps	「睡眠」	「生理的活動」	
2 身の回りの用事	3 wash, dress, care for self	「身の回り」		
3 食事	2 meals or snacks	「食事」		
4 通勤・通学	17 travel to/from work or education	「通勤」	「有償労働」	
5 仕事	4 paid work and related activities	「有償の仕事」		
7 家事	6 food preparation, cook, wash/put away dishes 7 cleaning, laundry, regular housework 8 maintain home/vehicle, including collect fuel 10 gardening/pick mushrooms	「家事」	「無償労働」	
8 介護・看護	12 look after adults needing help or care ***13 physical, medical, supervisory, routine child care	「世話」		
9 育児	***13 physical, medical, supervisory, routine child care 14 play/sports with, read/talk to child, help with homework			
10 買い物	**9 purchase goods, consume services	「買い物」		
19 受診・療養	**9 purchase goods, consume services			
17 ボランティア活動・社会参加活動	16 voluntary, civic, organizational act	「ボランティア活動」		
12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	20 watch television, listen to radio 21 read	「テレビ・ラジオ・読書」		「余暇活動」
6 学業	*5 schooling, education, homework	「教育」		
14 学習・研究(学業以外)	*5 schooling, education, homework			
16 スポーツ	19 sport or exercise	「スポーツ」		
15 趣味・娯楽	11 pet care (including walk dogs) ****22 e-mail, web, program, computer games 23 cinema/theatre, sport match, away from home leisure			
18 交際・付き合い	****22 e-mail, web, program, computer games *****24 other free time leisure			
13 休養・くつろぎ	*****24 other free time leisure	「余暇など」		
11 移動(通勤・通学を除く)	18 other travel			
20 その他	15 worship, religion, and prayer 25 no activity reported	「その他」	—	

はいえ、依然として長い。日本の長時間労働是正の課題において週末の有償労働時間をどうすべきかも重要な問題である。上記の帰結として、日本の男女は他国に比べて「生理的活動」と「余暇活動」を減らさざるを得ないが、「生理的活動」よりも「余暇活動」が他国に比べて少ない。

4.2 総平均時間量の男女差

フルタイムで働く男女の時間差をみることで生活時間における男女平等の程度を確認する。「有償・無償労働」が図 4-1~4-3, 「生

理的活動」が図 5-1~5-3, 「余暇活動」が図 6-1~6-3 である。イタリアと日本において、「男性＝有償労働, 女性＝無償労働」への偏り, つまり性別役割分業が他国に比べて明確である。この 20 年間でこの偏りの傾向は少しずつ改善しているが依然として偏りは高水準である。また、日本とイタリアの睡眠及び余暇関連活動の男女差(男>女)が大きく、余暇関連活動では週末で特に大きい。労働, 健康, 余暇活動におけるジェンダー問題の現れと言えよう。

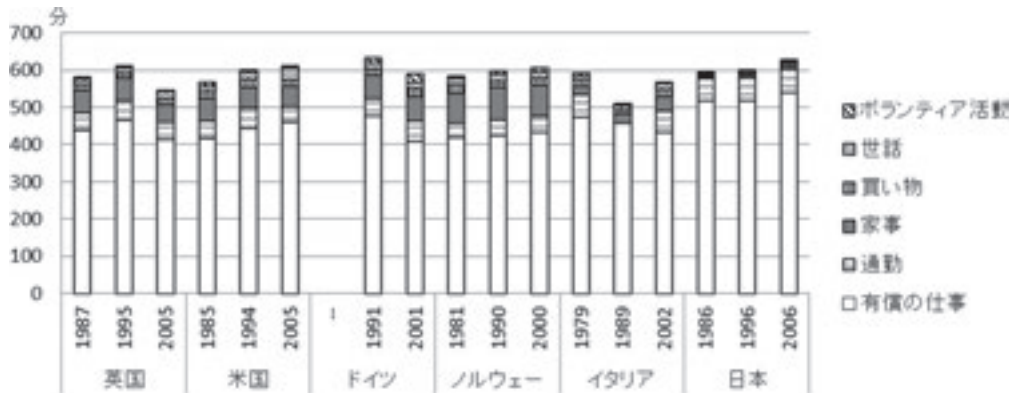


図 1-1 有償/無償労働関連活動，総平均時間，フルタイム労働者，平日（男性）

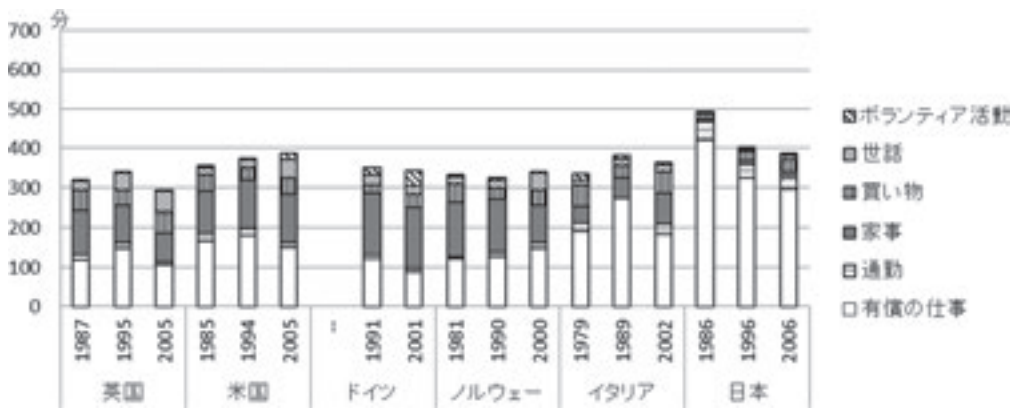


図 1-2 土曜日（男性）

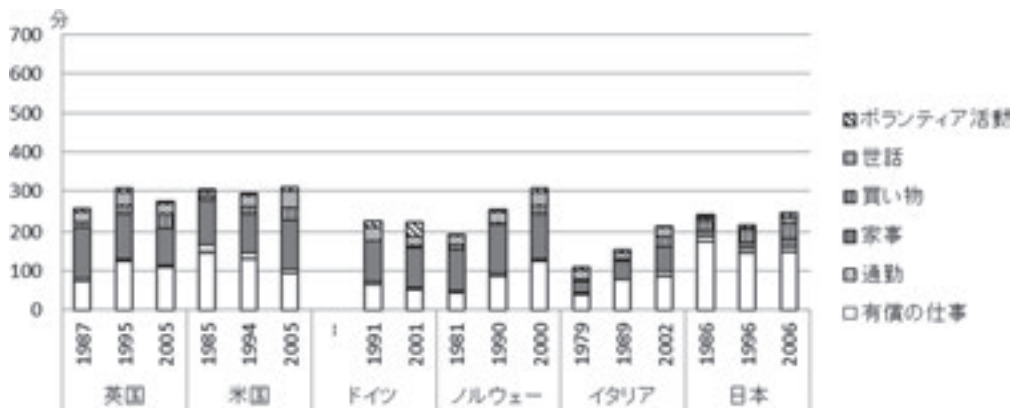


図 1-3 日曜日（男性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外は MTUS・HFS より筆者が集計。

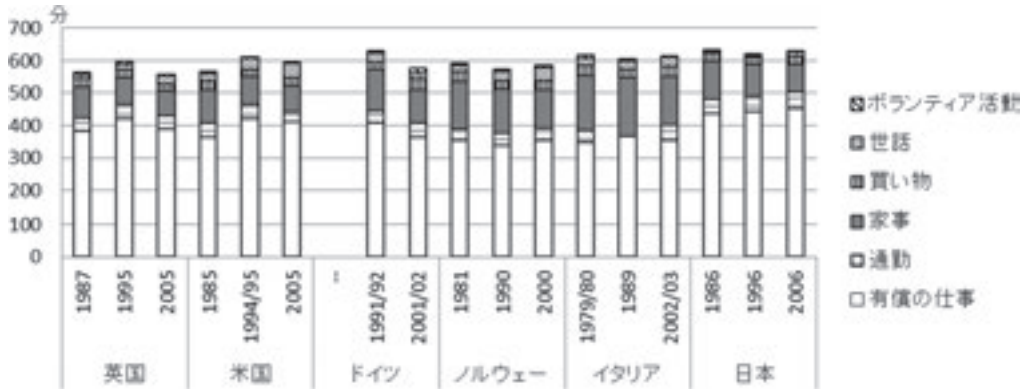


図 1-4 有償/無償労働関連活動，総平均時間，フルタイム労働者，平日（女性）

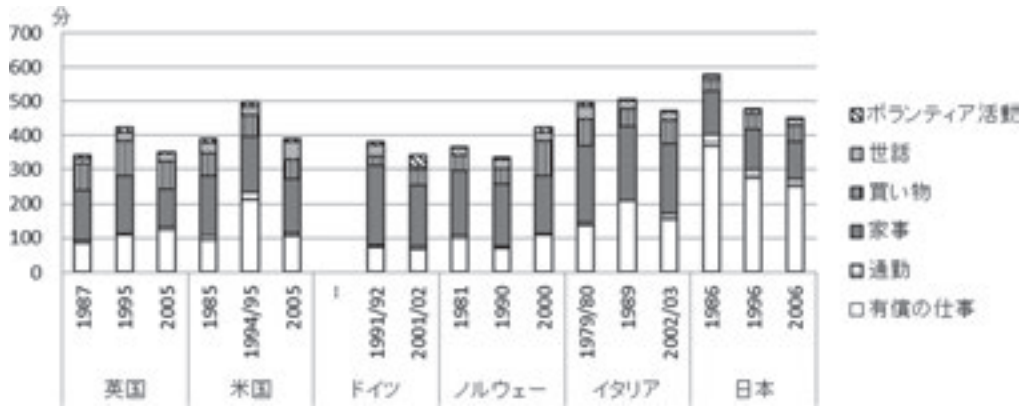


図 1-5 土曜日（女性）

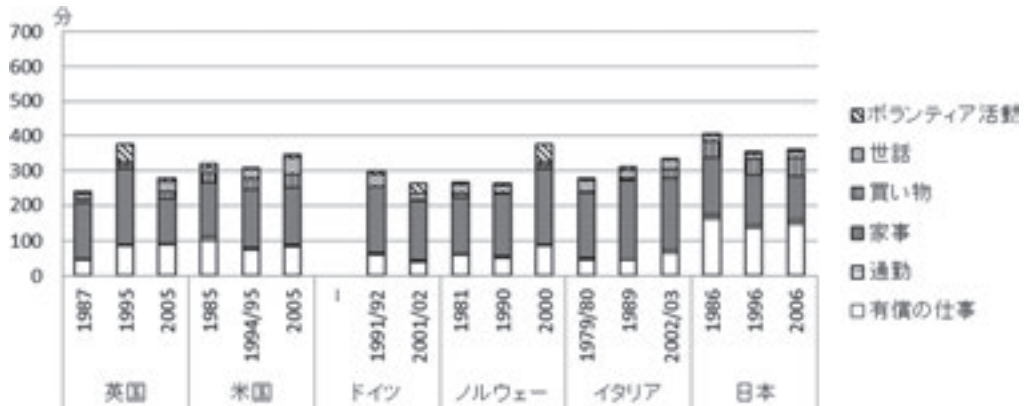


図 1-6 日曜日（女性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外は MTUS・HFS より筆者が集計。

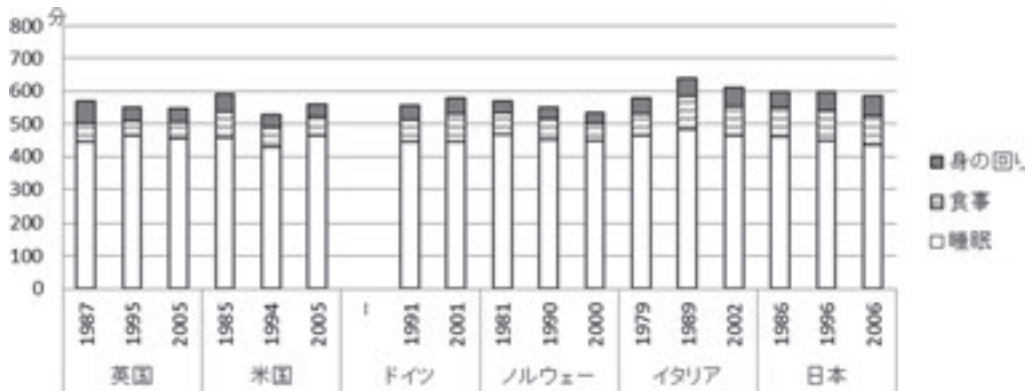


図2-1 生理的活動，総平均時間，フルタイム労働者，平日（男性）

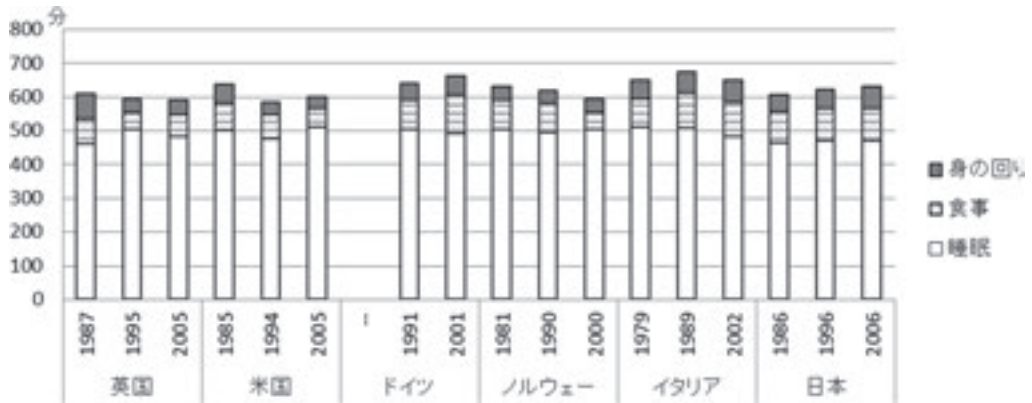


図2-2 土曜日（男性）

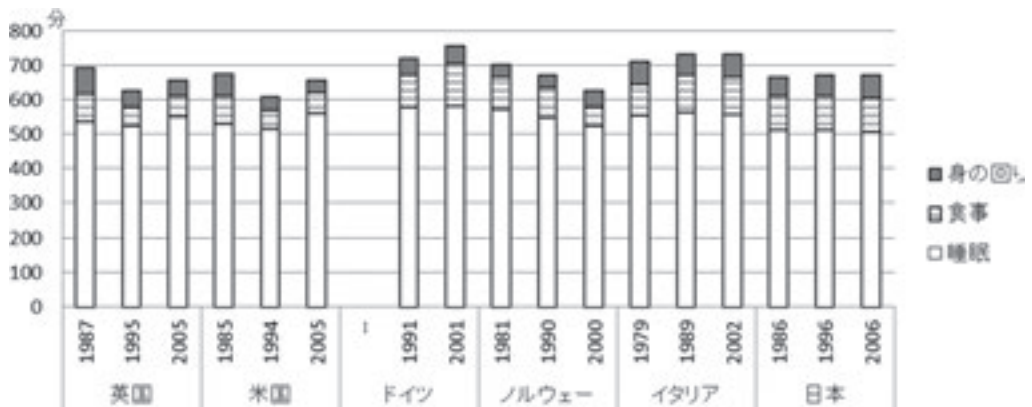


図2-3 日曜日（男性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外はMTUS・HFSより筆者が集計。

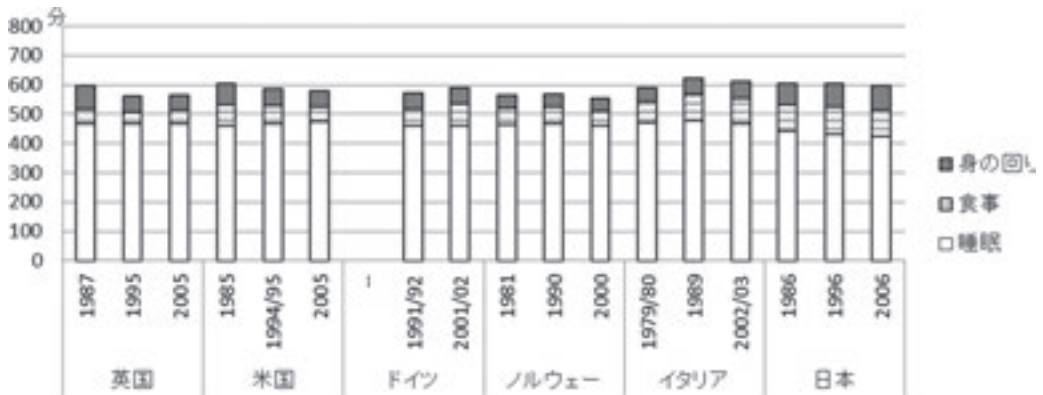


図 2-4 生理的活動，総平均時間，フルタイム労働者，平日（女性）

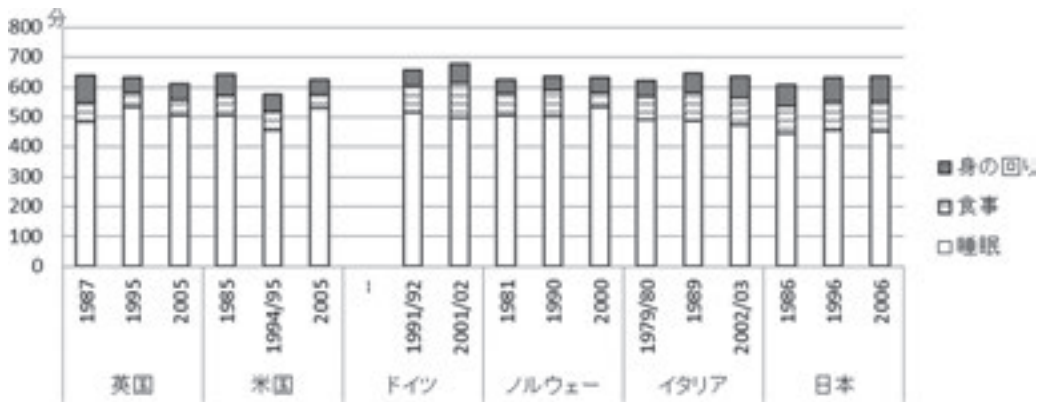


図 2-5 土曜日（女性）

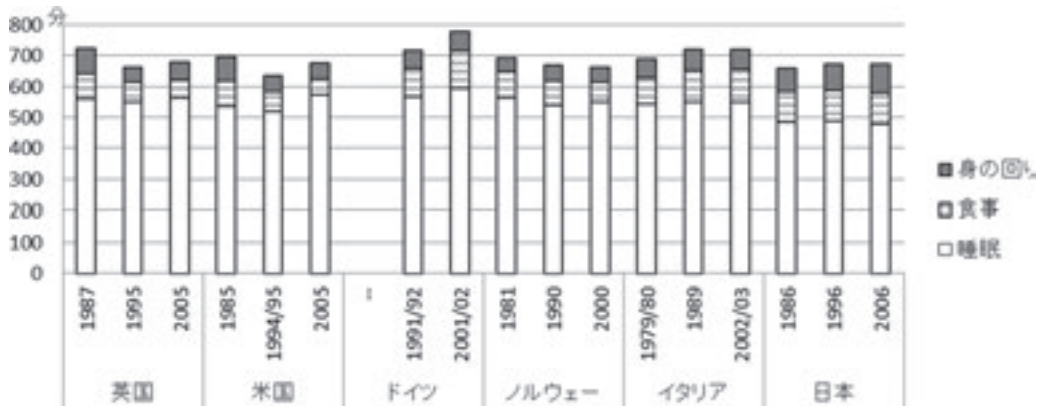


図 2-6 日曜日（女性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外は MTUS・HFS より筆者が集計。

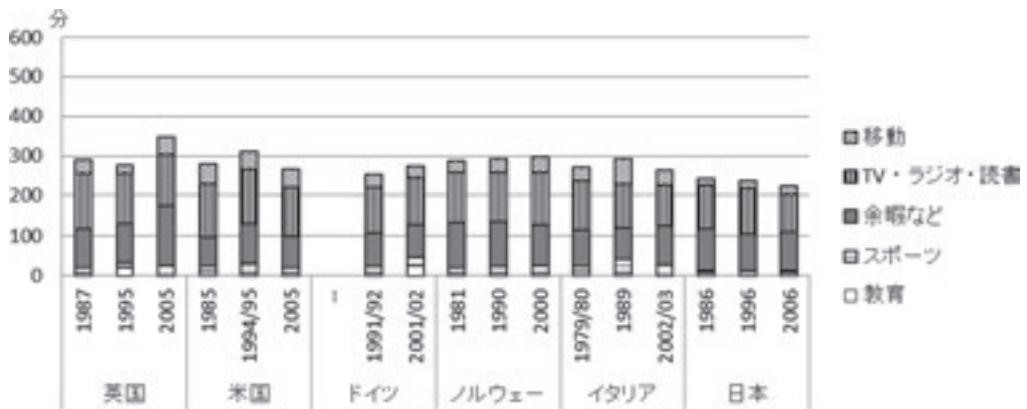


図3-1 余暇関連活動，総平均時間，フルタイム労働者，平日（男性）

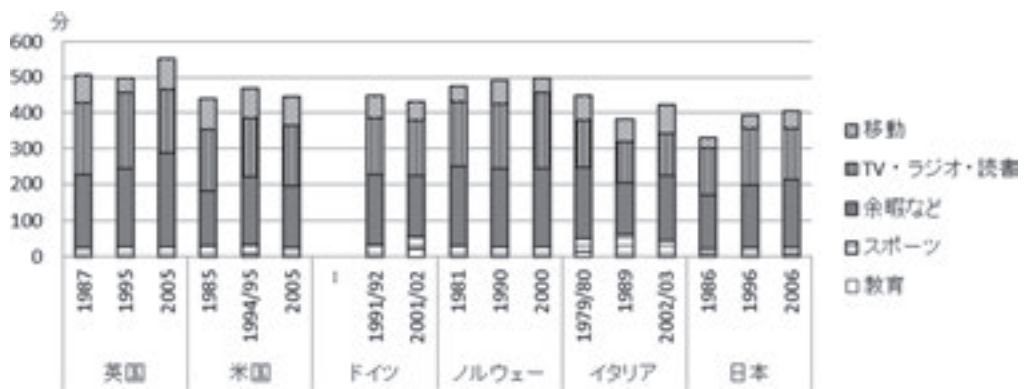


図3-2 土曜日（男性）

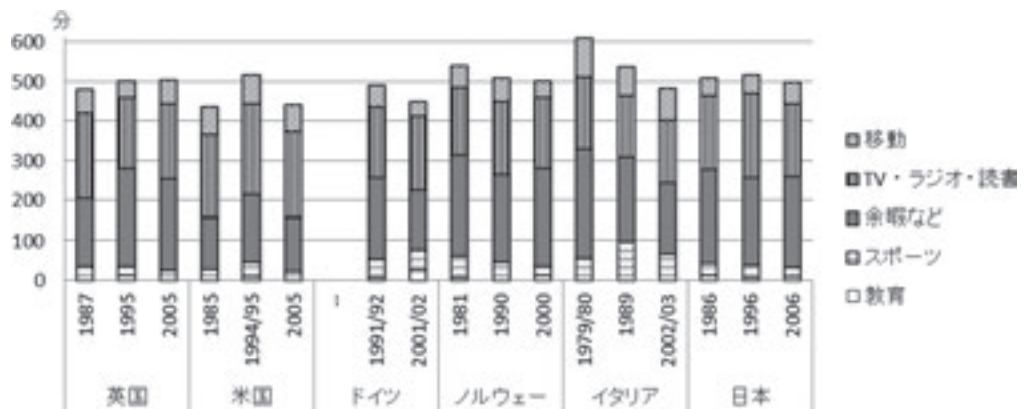


図3-3 日曜日（男性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外はMTUS・HFSより筆者が集計。

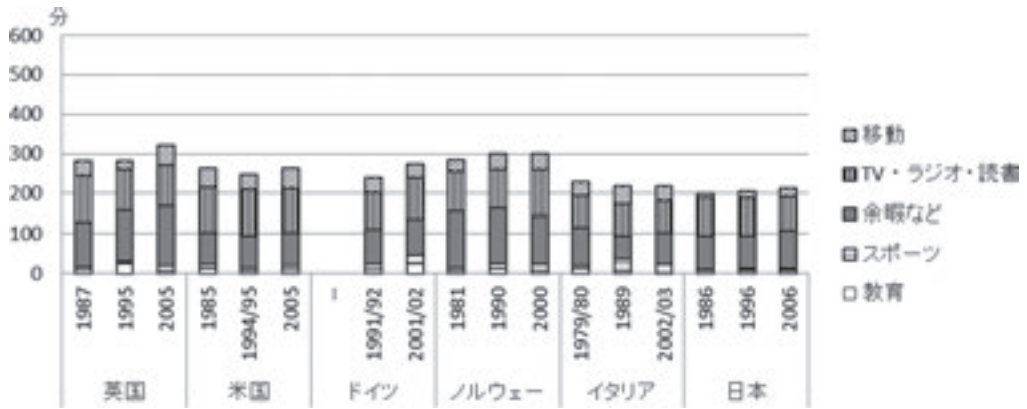


図3-4 余暇関連活動，総平均時間，フルタイム労働者，平日（女性）

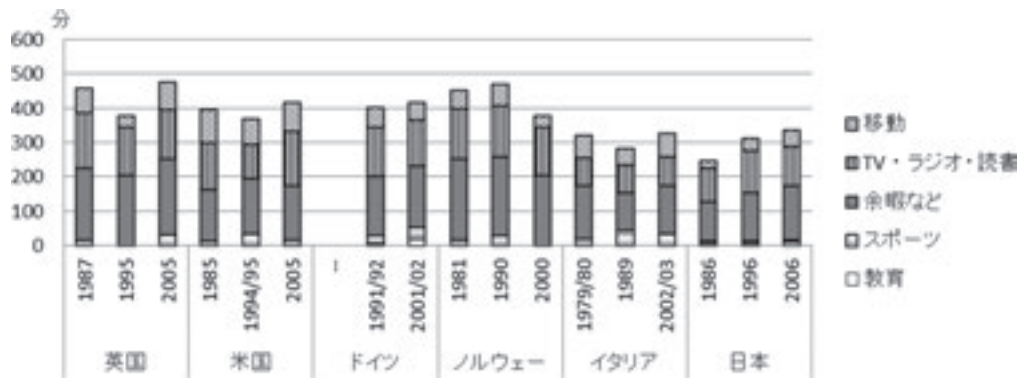


図3-5 土曜日（女性）

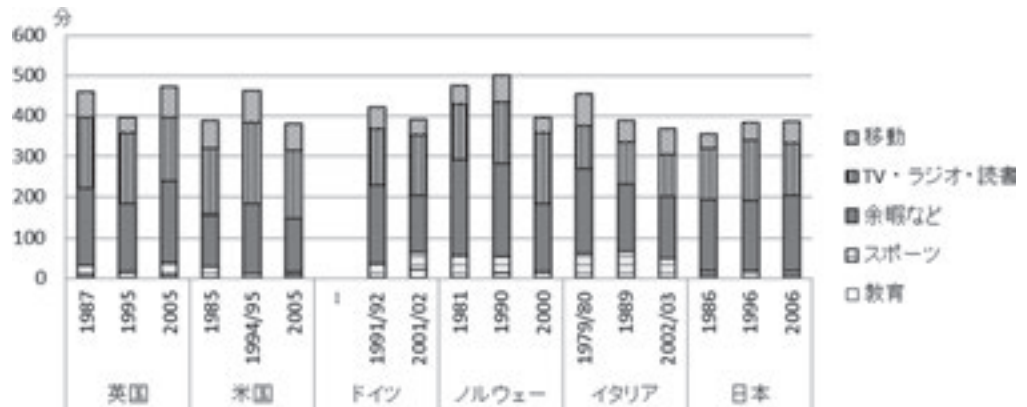


図3-6 日曜日（女性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外はMTUS・HFSより筆者が集計。

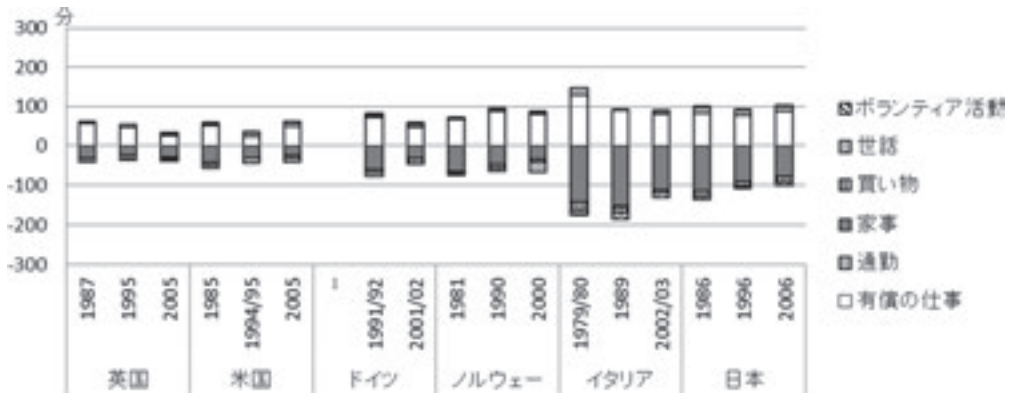


図4-1 有償/無償労働関連活動，総平均時間の男女差，フルタイム労働者，平日（男性マイナス女性）

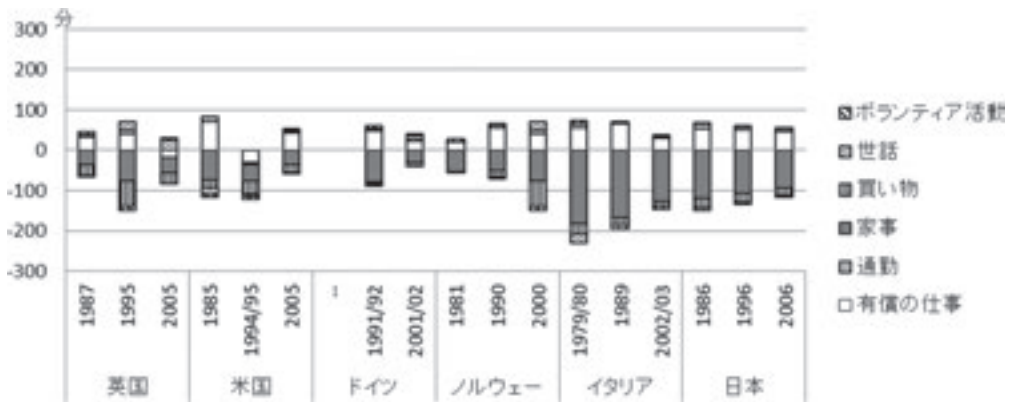


図4-2 土曜日（男性マイナス女性）

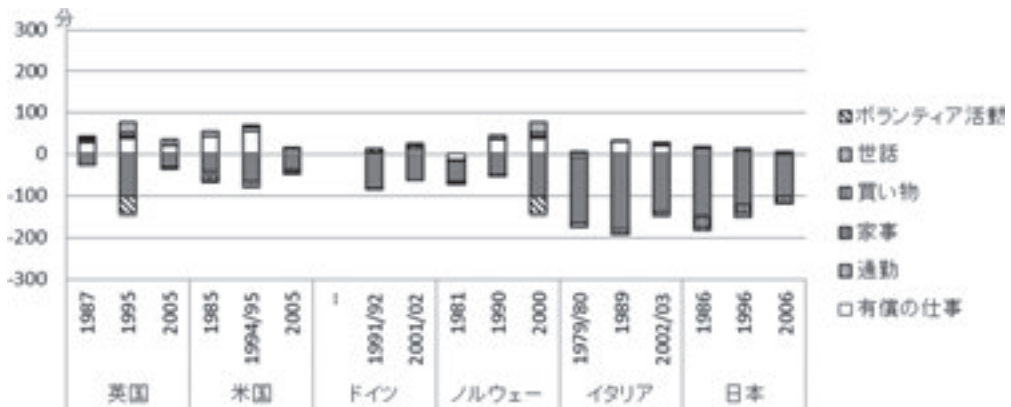


図4-3 日曜日（男性マイナス女性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外はMTUS・HFSより筆者が集計。

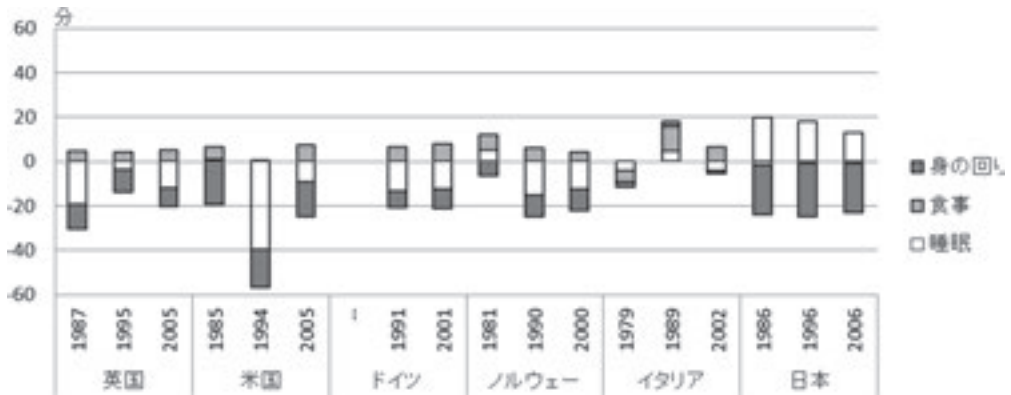


図 5-1 生理的関連活動，総平均時間の男女差，フルタイム労働者，平日（男性マイナス女性）

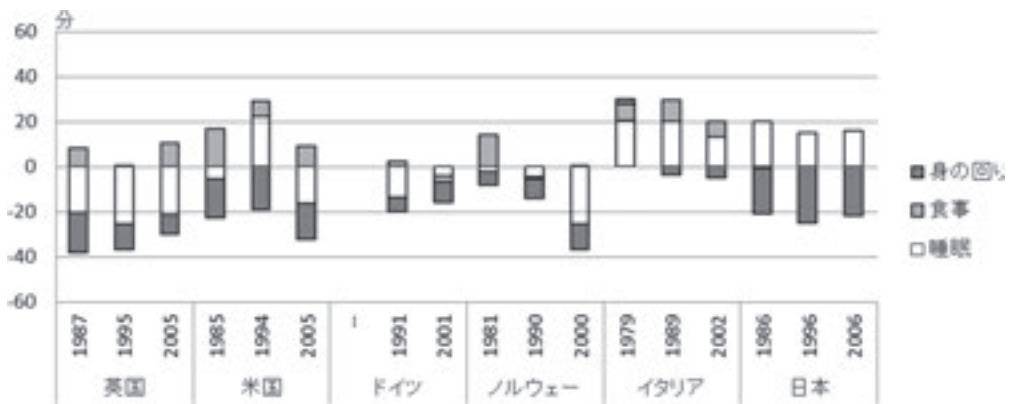


図 5-2 土曜日（男性マイナス女性）

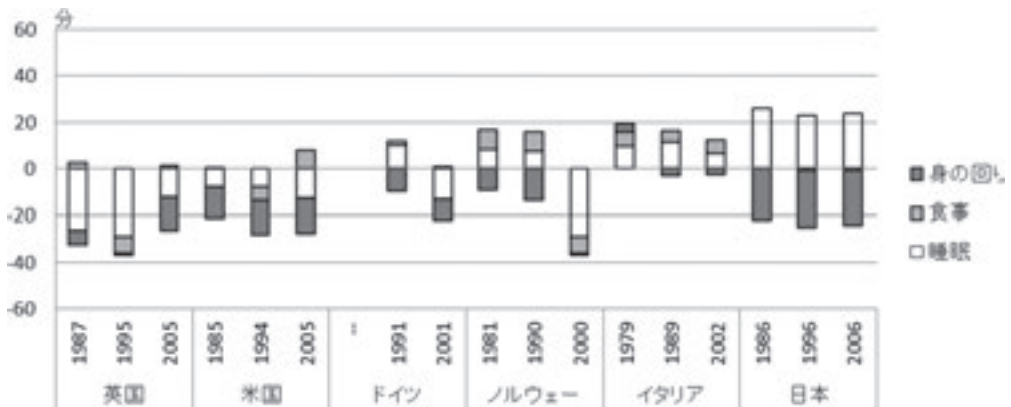


図 5-3 日曜日（男性マイナス女性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外は MTUS・HFS より筆者が集計。

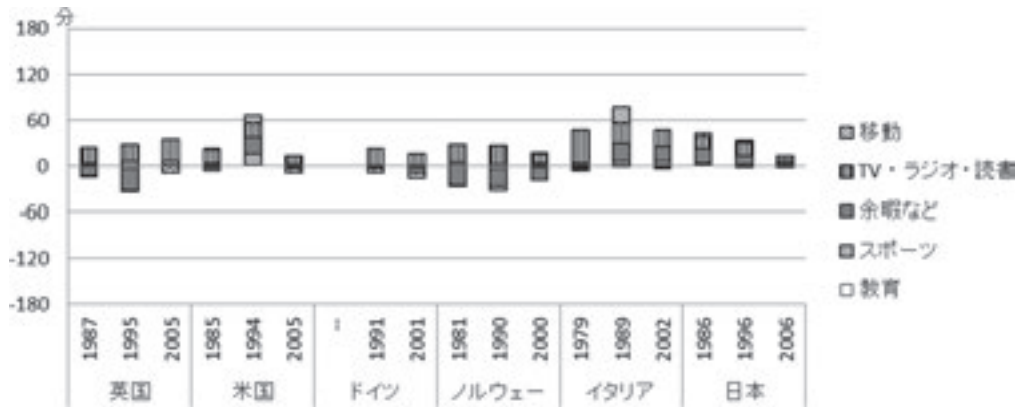


図6-1 余暇関連活動，総平均時間の男女差，フルタイム労働者，平日（男性マイナス女性）

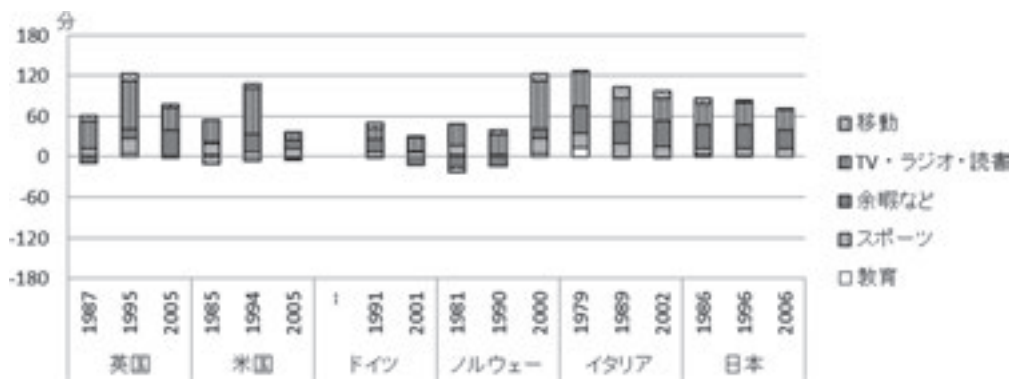


図6-2 土曜日（男性マイナス女性）

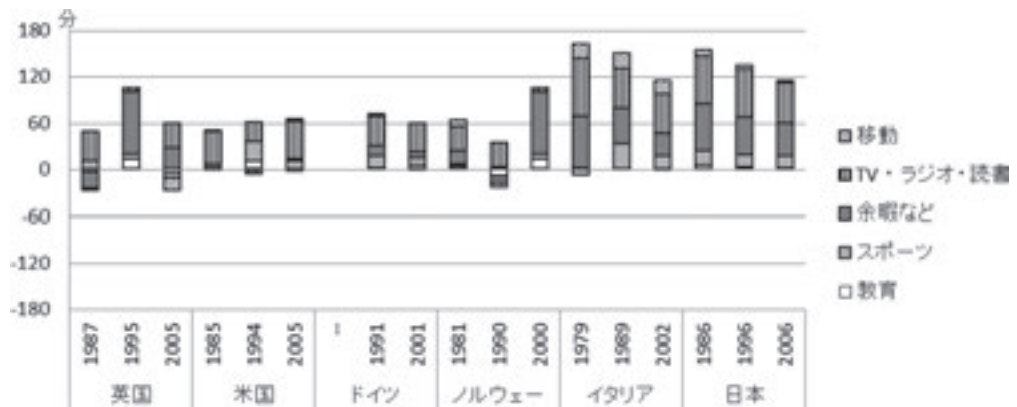


図6-3 日曜日（男性マイナス女性）

出所：日本は「社会生活基本調査」より，それ以外はMTUS・HFSより筆者が集計。

5. 結 論

以上において、生活時間の国際比較統計の整備動向をふまえた上で、MTUSと「社会調」の比較を試みた。本稿の結論として、MTUSを用いた比較方法に対して評価を加えるとともに、比較結果にもとづく筆者の考えを述べる。

5.1 比較方法論について

MTUS・HSFを利用した時系列国際比較の試みは研究上の空白を埋めるべく試みたが、技術的に様々な問題をふくむので、作成した比較表は限定的に利用されるべきであろう。表2からも明らかなように、①各国で調査方法に相当の違いがあること、②各国において一貫した調査方法で調査が繰り返されているわけではないことに注意が必要である。そして③比較表において不可解な値が多いのも事実である。例えば、英国・女性・日曜日・「ボランティア活動」が他の年に比べて突出している、イタリアの1989年データに通勤時間がない等である。これらは、筆者による集計プログラムを再点検した上で、MTUSを編纂するCTURと、データの出所である各国の公的統計機関に問い合わせて確認する

必要があるが、本稿ではそこまで至らなかった。今後の課題としたい。

MTUSは独自に統一されたマイクロデータという点で国際比較するための集計・分析結果をひとまず容易に得るには非常に有益だが、比較結果の妥当性を考えると、個別の国の原データに立ち返り、調査方法などを検討する作業が必要である。本稿ではそこまで立ち入ることはできなかった。

HETUSが現時点では「2000年ラウンド調査」結果しか利用できず、またMTUSが上記のように限定的利用にとどまるのであれば、時系列で日本との国際比較方法を今後さらに模索するのであれば、研究目的にそった特定の対象国について原データ（マイクロデータ）を独自に入手し、調査方法を比較検討した上で、組替え・調整した比較分析が有力な候補である。例えば、国家統計機関が比較的一貫した方法で近年に調査を複数回実施し、2010年前後にも調査を実施している国（例えばオーストリア、カナダ、フィンランド、オランダ、米国、フランス、スウェーデン、デンマーク、英国）が候補として考えられる。ただしマイクロデータの申請などは容易でないだろう。参考までに「2010年ラウンド調査」の実施状況を表4に掲げる。2016年に予定

表4 欧州地域における「2010年ラウンド調査」の実施時期

時 期 (年)	国
2008-09	デンマーク, イタリア, オーストリア
2009-2010	ブルガリア, エストニア, スペイン, フランス, ハンガリー, フィンランド, クロアチア*, マケドニア
2010-11	ルーマニア (?), スウェーデン, ノルウェー, アルバニア, ボスニア=ヘルツェゴビナ**, セルビア共和国,
2011-12	ベルギー, オランダ, モンテネグロ
2012年時点で実施予定なし	チェコ共和国, ルクセンブルク, スロバキア, 英国***, アイルランド, ポーランド, キプロス*, リトアニア, マルタ, ラトビア, ドイツ, ギリシャ, ポルトガル, スロベニア, トルコ, スイス, コソボ*

注1：*は国内状況の更新についての問い合わせに対して回答なしの意。**は試験調査の意。

注2：***英国の全国調査については、この表の出所公表以降、英国の研究会議（Research Councils）の1つである、経済・社会科学研究会議（Economic and Social Research Council）から資金提供を受けたCTURが2014-15年に実施することが2013年12月に決定。

出所：UNECE (2010b), p.12 より筆者が作成。

されているデータの公開が待ち望まれる。

5.2 比較結果について

WLBを議論する場合に、「誰に対する」WLBなのか、そして「社会格差」の是正を伴ったWLBなのかが重要である。「フルタイム労働者」に限定した本研究は「誰」を明確にしている一方で「フルタイム労働者」以外の労働者及びそれらの労働者との関係を捨象している点で面的である。また、「社会格差」の中でも重要なジェンダー問題に対応すべく生活時間の男女差に注目したが、単に男女差を見ている点でその差の内実につながる検討ができていないこと、また重層的な「社会格差」について男女の要因だけを見るのは不十分であることも本研究の限界である。

さらに、「フルタイム労働者」を個人単位で取り上げることに注意が必要である。生活の営みの場は一般的には世帯であり、単身世帯でなければ、個人の生活時間は他の世帯員のそれと密接な関係にある。理想的には世帯類型別に男女(例えば夫と妻)を比較する方が良いが、本研究では世帯単位による影響が混ざり合った個人単位の男女比較にとどまる(世帯単位による生活時間分析については水野谷2005, 2009, 連合総合生活開発研究所編2009参照)。

とはいえ、労働者構成の大きな部分を占めるのが依然としてフルタイム労働者(正規雇用者)であり、その男女の生活時間を国際比

較することは日本社会がWLBを実現する上で参考になるはずである。国際比較表から最後にいくつか指摘したい。

まず、日本においてWLB社会の実現に向けては、男女のフルタイム労働者の「有償労働」時間の短縮が必須である。本研究の男女の国際比較からも明らかのように、日本の男女(特に男性)の「有償労働」時間はこの20年間でみても依然として長いままで、さらに「有償労働=男性、無償労働=女性」への偏った状況も突出したままである。男性の有償労働を大幅に減らした上で男性の無償労働を増やし、女性の有償・無償労働を減らすことで男女のバランスがとれ、またそうすることによって生理的活動や余暇関連活動における男女差の改善にもつながっていき、延いてはWLB社会の実現にもつながっていく。竹信(2013)の主張と通底する部分である。

今後の日本におけるWLB社会の実現を模索する上で、他国の生活時間の特徴とそれを支えている社会経済条件を比較検討することが有益である。素朴すぎる分け方ではあるが本研究の生活時間の国際比較によって表5のようなタイプ分けができるのではないかと確認までに福祉国家類型の概要を表6に掲げる。また各国の労働時間に関わる法制度の概要も表7にまとめておく。

表5より、社会における有償・無償労働を男女で比較的平等に分ち合い、有償労働時間も比較的短い、したがって男女のWLBが

表5 生活時間と福祉国家類型による国のタイプ分け

	男性の有償労働時間	有償労働時間の男女差 (男>女)	無償労働時間の男女差 (男<女)	福祉国家類型
日本	とても長い	とても大きい	とても大きい	家族主義型
イタリア	短い	大きい	大きい	家族主義型
米国・英国	中程度	中程度	中程度	自由主義型
ドイツ	短い	中程度	中程度	保守主義型
ノルウェー	短い	小さい	小さい	社会民主主義型

注：セル内の表現は日本を基準にした相対的表現。

表6 福祉国家類型の概要

	対象国	(労働)市場への依存度	公的保障・社会サービスの水準	国民負担(税と社会保険等)の水準	家族(女性)へのケア労働依存の水準
自由主義型	米国, 英国	大	小	小	中
保守主義型	ドイツ, フランス	中	大	中 (社会保険中心)	中
社会民主主義型	スウェーデン	小	大	大 (税中心)	小
家族主義型	イタリア, スペイン, 東アジア諸国	大	小	小	大

出所：鎮日・近藤編（2013），永瀬（2013）を参考に筆者作成。

表7 労働時間関連法の概要

	上限規制	割増賃金	週休・休息	年休
日本	なし (告示として時間外労働の限度基準有り)	法定8時間超→25%以上 (1ヶ月60時間超→50%以上, 深夜→50%以上, 休日や60%以上。適用除外有り)	1週に1日	年に10日
イタリア	1日8時間・週48時間。 時間外労働は1日2時間及び1週12時間	10%以上	24時間ごとに11時間連続休暇。	年に4週
米国	なし	週40時間超→50% (適用除外有り)	なし	なし
英国	週48時間(任意の17週の平均)→EU労働時間指令の適応除外を維持	なし	1週に1日 24時間ごとに11時間連続休暇。1週に1日。	年に4週
ドイツ	1日8時間 (変形制で1日10時間まで)	なし	原則, 日曜日の就業禁止。24時間ごとに11時間連続休暇。	年に24日以上 (うち12日間の連続取得)
ノルウェー	1日9時間・週40時間, 時間外労働の上限は7日で10時間	40%以上	24時間ごとに11時間連続休暇。1週につき35時間連続休暇。	年に25日
EU労働時間指令	7日間48時間, 24時間ごとに11時間連続休暇 (=1日13時間の上限)。	なし	なし	年に4週 (代替手当は禁止)

注：各国にはより詳細な規則があるがポイントだけを抜粋。また欧州諸国では一般的に法規制よりも高いレベルの労働協約が普及していることが多い。

出所：内閣府経済社会総合研究所編（2009），労働政策研究・研修機構編（2012a, b, 2014）などを参考に筆者がまとめた。

相対的に実現しているのはノルウェーである。ノルウェーをふくめた北欧のWLB社会を支えている要素の1つに社会民主主義型の福祉国家体制があると思われる。また、表7からは、労働時間関連法制度において労働者保護

をより徹底している国で相対的に有償労働時間が短い。これはWLB社会を支える土台である。日本でWLB社会を実現するためには、また労働者の安全衛生政策の観点からも、有償労働時間、特に男性のその大幅な短縮が

必要であり、その際に労働時間規制の強化が検討されるべきである。それとともに日本型福祉国家体制の再構築も必要であろう。その際には北欧型が1つの参考になるとともにジェンダー視点を前提した日本の福祉国家体制(例えば永瀬2013)が検討されるべきである。

【付記】

本稿は、2014年9月11~13日まで京都大学及びクレオ大阪北で開催された経済統計学会2014年度(第58回)全国研究大会で発表した際に配付した資料を加筆・修正したものである。また、本研究は2013年度北海学園大学在外研修制度による研究成果の一部である。

参考文献

- 黒田祥子(2010)「日本人の労働時間：時短政策導入間とその20年後の比較を中心に」鶴光太郎・樋口美雄・水町勇一郎編『労働時間改革：日本の働き方をいかに変えるか』日本評論社
- 鎮目真人・近藤正基編(2013)『比較福祉国家：理論・計量・各国事例』ミネルヴァ書房
- 内閣府経済社会総合研究所編(2009, 2011)『ワーク・ライフ・バランス社会の実現と生産性の関係に関する研究(平成20, 22年度)報告書』
- 中山節子(2014)『時間貧困からの脱却にむけたタイムユースリテラシー教育：ESCAP地域の人間開発新戦略』大空社
- 武石恵美子編(2012)『国際比較の視点から日本のワーク・ライフ・バランスを考える：働き方改革の実現と政策課題』ミネルヴァ書房
- 竹信三恵子(2013)『家事労働ハラスメント：生きづらさの根にあるもの』岩波書店
- 永瀬伸子(2013)「非正規雇用と社会保険との亀裂」濱口桂一郎編『福祉と労働・雇用』ミネルヴァ書房
- 水野谷武志(2005)『雇用労働者の労働時間と生活時間：国際比較統計とジェンダーの視角から』御茶の水書房
- 水野谷武志(2009)「生活時間統計による国際比較研究の到達点と課題：「社会生活基本調査」とHETUSによる国際比較統計を素材に」『経済志林』法政大学経済学部学会, 第76巻, 第4号, pp.81-98
- 水野谷武志他訳(2010)「欧州統一生活時間調査(HETUS)ガイドライン——2008年版(翻訳と解説)」法政大学日本統計研究所『統計研究参考資料』No.107
- 水野谷武志(2013)「生活時間の国際比較統計の整備動向及び利用可能性」『北海学園大学経済論集』第60巻, 第1号, pp.15-26
- 矢野真和編(1995)『生活時間の社会学：社会の時間・個人の時間』東京大学出版会
- 連合総合生活開発研究所編(2009)『生活時間の国際比較：日・米・仏・韓のカップル調査』連合総合生活開発研究所
- 労働政策研究・研修機構編(2012a)『ワーク・ライフ・バランスの焦点：女性の労働参加と男性の働き方』労働政策研究・研修機構
- 労働政策研究・研修機構編(2012b)『労働時間規制に係る諸外国の制度についての調査(JILPT資料シリーズNo.104)』労働政策研究・研修機構
- 労働政策研究・研修機構編(2014)『データブック国際労働比較(2014年版)』労働政策研究・研修機構
- Esping-Andersen, G. (1990), *The Three World of Welfare Capitalism*, Oxford: Oxford University Press. (=2001, 岡沢憲英・宮本太郎監訳『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房)
- Eurostat (2000), *Guidelines on Harmonised European Time Use Surveys*.
- Eurostat (2003), *Time use at different stages of life: Results from 13 European countries*.
- Eurostat (2004), *How European spend their time everyday life of women and men*.
- Eurostat (2005), *Comparable Time Use Statistics: National tables from 10 European countries*.
- Eurostat (2006), *Comparable Time Use Statistics: Main results for Spain, Italy, Latvia, Lithuania and Poland*.
- Eurostat (2009), *Guidelines on Harmonised European Time Use Surveys (2008 guidelines)*.
- Fisher, K. and Gershuny, J. (2013), *Multinational*

- Time Use Study: User's guide and documentation (Version 6)*, Oxford: Centre for Time Use Research, University of Oxford.
- Fisher, K., Gershuny, J., Altintas, E. and Gauthier, A.H., (2012), *Multinational Time Use Study: User's guide and documentation (Version 5)*, Oxford: Centre for Time Use Research, University of Oxford.
- Szalai, A. (eds.) (1972), *The Use of Time: Daily Activities of Urban and Suburban Populations in Twelve Countries*, The Hague/Paris: Mouton.
- United Nations Economic Commission for Europe (UNECE) (2013), *Guidelines for Harmonising Time Use Surveys*, Geneva: United Nations.
- UNSD (2005), *Guide to Producing Statistics on Time Use: Measuring paid and unpaid work*, New York: United Nations.
- UNSD (2012), Report of the Meeting. Document for United Nations Expert Group Meeting on the Revision of the United Nations Trial International Classification of Activities for Time Use Statistics (ICATUS), 11-13 June 2012, New York. ESA/STAT/AC.254.

付表 MTUS と「社会調」との比較結果表

付表目次

付表 1	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別総平均時間 (1980 年代)
付表 2	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別総平均時間 (1990 年代)
付表 3	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別総平均時間 (2000 年代)
付表 4	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別行動者率 (1980 年代)
付表 5	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別行動者率 (1990 年代)
付表 6	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別行動者率 (2000 年代)
付表 7	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別行動者平均時間 (1980 年代)
付表 8	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別行動者平均時間 (1990 年代)
付表 9	性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類)	別行動者平均時間 (2000 年代)

付表 1 性、フルタイム労働者、行動分類 (15 分類) 別総平均時間 (1980 年代)

項目	英国 (1985 年)		ドイツ (1985 年)		フランス (1981 年)		イタリア (1979/1982 年)		日本 (1986 年)		(単位: 分)
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
平日											
睡眠	445	464	458	457	468	461	469	464	459	459	睡眠
食事	57	53	60	72	67	60	67	72	60	60	食事
身の回り	66	77	54	73	35	42	46	48	48	70	身の回り
有償の仕事	440	384	417	367	420	355	476	348	520	437	有償の仕事
教育	6	8	8	11	5	6	10	10	7	6	教育
通勤	45	47	48	41	37	34	60	41	60	65	通勤
家事	62	94	59	102	81	146	21	166	4	118	家事
買い物	15	27	20	28	25	31	16	33	7	23	買い物
娯楽	13	12	14	23	15	21	11	21	1	9	娯楽
ボランティア活動	7	5	9	8	7	6	9	10	2	1	ボランティア活動
エピソード	17	8	13	10	13	6	17	6	5	3	エピソード
余暇など	99	110	75	79	114	139	91	94	104	85	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	138	118	131	114	123	100	133	79	150	83	テレビ・ラジオ・読書
通勤	34	36	50	48	28	29	34	36	16	12	通勤
その他	1	2	1	8	1	1	1	1	4	7	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	合計
土曜日											土曜日
睡眠	461	482	500	505	502	505	511	490	462	462	睡眠
食事	73	65	82	65	88	73	83	76	93	84	食事
身の回り	73	81	54	72	39	45	56	54	50	70	身の回り
有償の仕事	119	86	166	94	121	100	102	137	421	310	有償の仕事
教育	4	3	4	1	5	3	15	2	9	6	教育
通勤	14	9	21	10	7	8	22	11	48	36	通勤
家事	106	144	103	176	134	187	39	221	7	127	家事
買い物	52	79	43	66	47	45	54	80	12	23	買い物
娯楽	23	17	17	36	18	22	12	56	5	11	娯楽
ボランティア活動	5	7	4	13	6	1	16	11	2	1	ボランティア活動
エピソード	23	12	29	13	27	14	37	16	14	9	エピソード
余暇など	201	211	150	149	219	235	196	156	148	114	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	263	162	171	137	181	149	132	82	132	99	テレビ・ラジオ・読書
通勤	38	51	68	66	45	52	66	66	28	32	通勤
その他	3	2	7	10	1	1	6	3	10	10	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	合計
日曜日											日曜日
睡眠	536	562	531	539	573	565	555	546	512	466	睡眠
食事	62	60	62	62	72	64	79	79	79	84	食事
身の回り	76	83	63	76	38	46	66	63	55	77	身の回り
有償の仕事	74	46	145	104	45	60	40	48	174	164	有償の仕事
教育	4	7	2	4	8	4	5	3	12	7	教育
通勤	7	3	22	9	4	4	4	4	15	11	通勤
家事	132	109	113	132	105	136	29	187	15	104	家事
買い物	11	10	13	26	15	16	5	2	22	67	買い物
娯楽	23	17	8	17	23	25	24	33	9	16	娯楽
ボランティア活動	9	5	6	11	2	5	7	6	5	3	ボランティア活動
エピソード	33	23	25	24	54	52	52	60	31	12	エピソード
余暇など	188	169	132	127	252	236	273	206	234	173	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	216	177	207	164	171	130	182	107	189	127	テレビ・ラジオ・読書
通勤	61	64	70	34	54	46	99	80	43	35	通勤
その他	8	15	21	34	4	4	7	13	22	19	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1437	1460	合計

注: ドイツの 1980 年代のデータはない。
出所: CTUR・MTUS, 総務省統計局「社会調」より筆者が計算。

付表2 性, フルタイム労働者, 行動分類 (15 分類) 別総平均時間 (1990 年代)

項目	英国 (1993年)		米国 (1994/1995年)		ドイツ (1997/1998年)		フランス (1993年)		イタリア (1998年)		日本 (1996年)		(単位:分)
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
睡眠	462	465	427	467	444	458	452	461	481	476	448	450	睡眠
食事	44	40	60	60	65	59	64	56	56	102	92	103	食事
身の回り	42	52	40	57	46	53	34	43	53	51	55	79	身の回り
有償の仕事	467	423	445	423	478	408	428	340	458	367	520	443	有償の仕事
教育	20	34	6	5	7	9	7	10	5	6	4	6	教育
通勤	31	67	55	48	46	41	41	37	37	0	83	16	通勤
家事	61	84	34	85	64	125	87	126	235	180	4	96	家事
買い物	14	25	21	22	15	23	17	23	12	26	9	23	買い物
娯楽	14	16	20	33	16	28	20	29	11	27	3	8	娯楽
ボランティア活動	5	8	6	3	13	7	8	6	4	4	2	1	ボランティア活動
エロティック	17	6	25	10	14	13	13	13	35	79	6	4	エロティック
余暇など	97	126	100	79	85	88	113	138	80	57	93	52	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	125	103	134	115	114	93	122	98	108	81	113	96	テレビ・ラジオ・読書
移動	22	22	46	37	32	37	35	40	64	43	19	16	移動
その他	3	3	1	0	0	0	1	1	1	1	9	12	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	合計
睡眠	505	530	478	454	502	516	494	499	507	487	470	455	睡眠
食事	50	49	73	65	87	85	88	89	105	95	95	105	食事
身の回り	38	49	26	55	49	55	37	46	60	64	56	81	身の回り
有償の仕事	160	110	182	212	121	74	127	21	274	200	324	277	有償の仕事
教育	5	0	9	3	5	7	3	2	3	4	7	6	教育
通勤	15	5	18	23	10	6	13	7	0	0	33	15	通勤
家事	90	167	120	162	153	232	129	180	32	220	10	116	家事
買い物	40	103	32	64	23	27	29	44	31	49	23	44	買い物
娯楽	45	25	29	25	16	33	23	28	15	25	6	11	娯楽
ボランティア活動	4	14	1	11	16	8	5	5	9	5	5	3	ボランティア活動
エロティック	25	3	24	30	29	21	27	25	39	39	18	7	エロティック
余暇など	214	200	187	160	192	174	217	232	141	109	173	139	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	213	143	167	99	160	143	181	150	116	82	159	135	テレビ・ラジオ・読書
移動	42	32	83	77	65	87	62	62	63	45	34	36	移動
その他	6	10	12	0	0	0	1	0	2	4	19	18	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1439	1440	合計
睡眠	523	552	514	522	560	569	549	542	565	553	512	499	睡眠
食事	37	34	57	62	72	91	69	76	102	99	99	100	食事
身の回り	47	48	38	53	49	58	39	52	63	66	61	85	身の回り
有償の仕事	125	88	132	77	66	63	87	52	78	48	146	138	有償の仕事
教育	13	0	12	1	8	6	2	12	2	1	9	6	教育
通勤	6	2	14	5	7	4	8	6	0	0	12	11	通勤
家事	111	215	98	163	104	188	123	174	46	226	15	117	家事
買い物	21	12	20	33	2	2	3	5	7	5	32	30	買い物
娯楽	34	10	29	26	33	37	27	20	14	25	3	13	娯楽
ボランティア活動	10	3	3	3	15	9	6	7	8	8	9	6	ボランティア活動
エロティック	22	15	26	10	46	30	46	43	97	64	29	13	エロティック
余暇など	245	165	187	169	204	181	227	210	163	219	171	171	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	180	178	229	204	180	141	184	153	157	106	213	150	テレビ・ラジオ・読書
移動	42	38	74	79	55	53	59	65	72	52	47	42	移動
その他	3	3	19	32	0	0	2	4	15	21	29	27	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1439	1440	合計

注: 四捨五入してあるために合計が1440分にならない場合がある。
出所: CTUR・MTUS, 総務省統計局「社会調査」より筆者が計算。

付表 3 性、フルタイム労働者、行動分類 (15 分類) 別総平均時間 (2000 年代)

項目	英国 (2005 年)		米国 (2005 年)		ドイツ (2007 年)		フランス (2003 年)		イタリア (2003 年)		日本 (2005 年)		項目
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
睡眠	452	465	464	473	445	467	447	459	462	466	434	421	睡眠
食事	52	47	56	49	83	76	54	59	91	85	89	80	食事
身の回り	42	40	40	56	48	56	34	44	56	58	62	64	身の回り
有償の仕事	415	391	481	412	410	364	434	354	434	355	540	454	有償の仕事
教育	4	5	7	6	24	26	5	7	4	5	5	6	教育
通勤	45	40	42	32	53	45	44	39	58	48	65	61	通勤
家事	47	76	55	75	68	101	119	119	38	150	6	56	家事
買い物	17	22	17	25	22	35	18	26	21	30	9	23	買い物
娯楽	20	27	32	43	16	15	18	42	16	27	5	12	娯楽
ボランティア活動	1	1	6	5	22	18	9	5	2	1	2	1	ボランティア活動
余暇など	20	14	12	10	20	71	16	16	74	18	6	4	余暇など
余暇など	148	148	81	83	82	90	103	121	98	79	99	85	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	130	102	121	111	116	102	129	116	102	80	92	85	テレビ・ラジオ・読書
移動	44	52	44	50	27	33	40	39	35	36	21	22	移動
その他	1	1	3	4	2	2	4	3	2	2	6	8	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1441	1439	合計
睡眠	481	503	510	527	491	495	505	530	483	470	468	452	睡眠
食事	66	56	55	46	116	118	50	49	100	93	96	86	食事
身の回り	43	52	33	49	54	64	38	49	66	71	65	87	身の回り
有償の仕事	107	126	162	109	88	67	169	110	166	166	297	252	有償の仕事
教育	1	2	3	5	24	18	5	0	3	4	8	8	教育
通勤	6	8	13	9	12	9	15	5	26	21	30	23	通勤
家事	71	108	119	155	190	181	90	167	76	203	15	109	家事
買い物	53	82	41	60	34	43	40	103	55	68	29	67	買い物
娯楽	56	29	48	49	22	11	43	25	19	25	12	17	娯楽
ボランティア活動	5	0	14	10	38	33	4	14	4	3	6	4	ボランティア活動
スポーツ	28	27	24	12	34	33	25	3	44	29	19	7	スポーツ
余暇など	259	221	168	158	167	180	214	200	180	142	187	160	余暇など
余暇など	179	146	172	159	155	134	213	143	117	83	144	114	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	65	61	61	64	52	52	42	32	61	70	49	68	テレビ・ラジオ・読書
移動	2	2	6	9	3	2	6	10	3	4	15	15	移動
その他	2	2	6	9	3	2	6	10	3	4	15	15	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1439	合計
睡眠	551	564	562	575	581	594	523	552	558	551	505	481	睡眠
食事	64	61	60	54	123	123	110	64	100	104	100	101	食事
身の回り	44	58	37	52	53	62	47	48	65	68	69	82	身の回り
有償の仕事	110	90	95	84	52	41	125	86	87	66	149	150	有償の仕事
教育	1	7	4	7	25	20	13	0	2	3	10	8	教育
通勤	6	5	9	6	6	6	6	2	11	9	14	13	通勤
家事	32	126	128	192	192	189	111	215	63	206	19	172	家事
買い物	34	20	29	35	6	9	21	12	28	27	39	53	買い物
娯楽	28	31	42	47	23	16	34	10	21	27	13	16	娯楽
ボランティア活動	5	7	10	9	35	29	10	51	1	1	1	7	ボランティア活動
スポーツ	26	32	20	9	54	44	22	15	64	47	25	9	スポーツ
余暇など	227	199	134	131	147	138	245	165	179	150	228	184	余暇など
余暇など	190	158	215	166	188	151	180	178	156	105	184	131	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	60	76	69	67	37	38	42	38	61	64	55	53	テレビ・ラジオ・読書
移動	4	9	27	35	8	7	3	3	11	14	20	19	移動
その他	4	9	27	35	8	7	3	3	11	14	20	19	その他
合計	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1440	1439	1439	合計

注：四捨五入しているために合計が1440分にならない場合がある。

出所：CTUR・MTUS、総務省統計局「社会調」より筆者が計算。

付表 4 性、フルタイム労働者、行動分類 (15 分) 別行動者率 (1980 年代)

	英国 (1987年)		英国 (1985年)		ドイツ (—)		ノルウェー (1981年)		イタリア (1979/80年)		日本 (1986年)		(単位: %)
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
平日													
睡眠	100	100	100	100	—	—	100	100	100	100	100	100	
食事	93	92	99	97	—	—	99	98	97	97	99	99	
身の回り	99	100	98	99	—	—	95	97	99	99	99	99	
有償の仕事	86	82	86	83	—	—	84	81	92	83	95	93	
教育	3	4	4	6	—	—	—	—	6	7	2	2	
通勤	80	79	84	82	—	—	72	72	90	75	74	65	
家事	89	85	88	89	—	—	72	95	25	20	3	3	
買い物	27	43	40	51	—	—	41	58	28	58	3	14	
娯楽	21	14	24	31	—	—	23	22	18	28	1	8	
ボランティア活動	11	9	12	11	—	—	5	4	10	7	1	1	
スポーツ	12	14	16	13	—	—	16	13	16	13	5	4	
余暇など	74	83	76	78	—	—	81	87	78	73	27	28	
テレビ・ラジオ・読書	87	85	85	87	—	—	89	89	89	89	80	78	
移動	51	54	72	75	—	—	45	51	59	66	18	18	
その他	2	3	14	19	—	—	1	1	1	3	7	9	
土曜日													
睡眠	100	100	100	100	—	—	88	100	88	100	100	100	
食事	93	88	97	97	—	—	100	100	98	99	99	99	
身の回り	99	100	94	97	—	—	96	98	100	99	89	93	
有償の仕事	36	25	41	34	—	—	31	28	48	37	84	85	
教育	2	2	2	2	—	—	3	2	8	1	3	2	
通勤	89	80	86	89	—	—	16	20	44	60	62	55	
家事	76	82	70	94	—	—	60	92	45	97	7	72	
買い物	57	65	51	66	—	—	80	58	55	76	5	17	
娯楽	25	20	18	32	—	—	26	20	19	30	3	9	
ボランティア活動	7	9	7	16	—	—	3	1	14	12	1	1	
スポーツ	18	13	20	13	—	—	26	17	34	23	9	4	
余暇など	88	93	84	91	—	—	93	97	90	90	31	27	
テレビ・ラジオ・読書	89	83	80	82	—	—	88	85	81	70	80	75	
移動	73	74	68	87	—	—	66	68	78	81	27	26	
その他	2	3	14	23	—	—	1	2	4	4	9	9	
日曜日													
睡眠	100	100	100	100	—	—	99	100	100	100	100	100	
食事	95	93	95	97	—	—	99	98	98	99	99	98	
身の回り	99	99	98	100	—	—	94	95	100	97	88	92	
有償の仕事	23	16	42	29	—	—	18	20	13	16	38	46	
教育	3	5	1	5	—	—	5	4	4	4	3	7	
通勤	16	9	32	22	—	—	7	11	9	6	21	17	
家事	80	86	80	91	—	—	81	93	48	90	12	77	
買い物	23	15	31	48	—	—	30	27	22	15	7	15	
娯楽	28	21	18	25	—	—	24	20	20	24	6	9	
ボランティア活動	10	11	11	12	—	—	2	4	14	13	3	2	
スポーツ	25	22	18	24	—	—	46	48	40	43	15	6	
余暇など	85	91	82	83	—	—	96	97	95	90	39	32	
テレビ・ラジオ・読書	82	90	95	90	—	—	90	89	92	84	84	78	
移動	67	68	77	89	—	—	60	63	84	76	37	34	
その他	8	14	31	34	—	—	3	3	14	25	14	14	

注：ドイツの1980年代のデータはない。
出所：CTUR・MTUS, 総務省統計局「社会調」より筆者が計算。

付表5 性、フルタイム労働者、行動分類(15分頻) 別行動者率(1990年代)

	英国(1995年)		米国(1994/95年)		ドイツ(1991/92年)		ノルウェー(1990年)		イタリア(1989年)		日本(1988年)		(単位:%)
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
平日													
睡眠	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
食事	82	83	90	88	98	97	98	97	99	99	99	99	
身の回り	96	96	93	95	99	100	99	99	100	99	99	99	
有償の仕事	86	85	84	84	92	87	86	78	97	93	93	91	
教育	13	20	2	3	6	7	5	4	4	4	1	2	
通勤	71	96	83	81	88	77	78	73	0	0	80	74	
家事	66	79	62	80	77	93	79	94	38	92	6	64	
買い物	19	30	35	39	35	53	41	56	26	47	5	16	
娯楽	19	15	30	40	29	35	25	28	21	42	2	3	
ボランティア活動	4	6	5	3	20	16	5	5	5	6	1	1	
スポーツ	9	6	21	14	18	18	19	17	49	50	6	3	
余暇など	97	67	63	62	82	85	80	91	73	66	24	24	
テレビ・ラジオ・読書	83	77	82	82	89	87	89	88	86	79	76	74	
移動	31	37	71	70	62	70	62	64	81	70	20	24	
その他	6	6	1	0	0	0	2	2	1	2	14	19	
土曜日													
睡眠	100	100	100	100	100	100	100	99	100	100	100	100	
食事	82	90	89	79	99	99	98	99	99	99	99	99	
身の回り	95	97	82	96	99	99	95	96	99	99	99	99	
有償の仕事	62	21	40	44	36	27	36	24	68	80	64	87	
教育	6	6	4	4	5	6	2	3	3	3	2	2	
通勤	29	10	36	48	23	16	24	17	0	0	47	42	
家事	69	92	67	81	86	97	84	85	47	93	10	64	
買い物	43	68	35	71	44	51	56	64	40	58	12	24	
娯楽	17	23	27	25	34	31	25	26	23	37	2	4	
ボランティア活動	3	6	4	8	20	18	3	1	7	6	3	2	
スポーツ	16	3	16	21	28	26	25	32	58	53	10	5	
余暇など	81	72	76	85	92	92	87	97	81	75	30	28	
テレビ・ラジオ・読書	67	77	79	69	69	60	66	61	63	79	79	74	
移動	49	54	76	94	81	77	76	66	78	66	34	34	
その他	12	15	5	0	0	0	2	2	3	6	17	19	
日曜日													
睡眠	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
食事	84	91	90	88	99	99	98	99	99	98	98	98	
身の回り	96	91	88	88	100	100	92	96	99	99	99	99	
有償の仕事	28	26	27	18	31	29	28	19	23	14	32	32	
教育	4	0	4	4	8	8	3	7	1	3	2	2	
通勤	13	6	29	16	13	8	17	9	0	0	18	18	
家事	70	91	69	80	85	97	86	97	48	94	13	68	
買い物	18	21	38	40	6	6	11	10	23	12	12	21	
娯楽	23	13	27	32	35	35	26	23	19	36	3	4	
ボランティア活動	10	11	2	4	23	19	5	5	9	10	4	3	
スポーツ	12	13	21	12	41	35	43	36	72	43	14	7	
余暇など	60	81	65	60	94	95	88	90	90	84	35	31	
テレビ・ラジオ・読書	78	83	85	86	93	91	92	92	87	79	84	79	
移動	40	38	83	82	75	68	73	74	72	60	41	40	
その他	6	11	17	22	0	0	3	3	25	37	23	24	

出所: CTUR・MTUS, 総務省統計局「社会調」より筆者が計算。

付表6 性、フルタイム労働者、行動分類(15分頻) 別行動者率(2000年代)

	英国(2005年)		米国(2005年)		ドイツ(2007/02年)		ノルウェー(2000年)		イタリア(2002/03年)		日本(2006年)		(単位:%)
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
平日	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	睡眠
食事	92	92	93	92	99	98	99	98	99	99	99	99	食事
身の回り	94	94	95	94	98	98	99	98	99	99	99	99	身の回り
有償の仕事	85	464	89	86	84	80	84	78	88	82	94	90	有償の仕事
教育	2	144	3	5	21	18	2	1	2	1	1	2	教育
通勤	0	0	81	78	80	78	77	73	88	81	80	78	通勤
買い物	63	92	60	79	75	89	86	97	50	91	70	63	買い物
娯楽	23	73	37	51	39	57	48	65	40	55	5	14	娯楽
娯楽以外活動	18	132	39	47	27	20	27	37	22	28	3	5	娯楽以外活動
スポーツ	1	176	6	6	33	34	6	4	1	1	1	1	スポーツ
余暇など	28	55	16	15	23	28	18	21	25	23	6	3	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	91	160	76	80	79	83	83	83	81	75	23	27	テレビ・ラジオ・読書
移動	82	131	83	81	89	87	91	92	84	81	68	67	移動
その他	65	70	73	79	48	61	54	61	62	70	23	31	その他
	2	62	6	2	3	2	14	14	2	4	0	12	その他
土曜日	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	睡眠
食事	91	84	88	86	100	99	98	99	99	99	98	99	食事
身の回り	87	91	70	80	97	99	95	98	99	99	88	94	身の回り
有償の仕事	77	31	42	37	28	23	30	24	46	41	58	55	有償の仕事
教育	0	2	1	3	22	17	1	2	2	2	2	2	教育
通勤	17	21	28	23	20	18	18	17	45	39	43	40	通勤
買い物	69	82	65	84	86	84	83	84	61	92	15	65	買い物
娯楽	47	58	56	63	49	56	62	60	64	73	16	26	娯楽
娯楽以外活動	19	17	39	44	25	15	30	31	21	25	5	6	娯楽以外活動
スポーツ	2	1	8	8	45	48	8	4	1	3	2	2	スポーツ
余暇など	31	30	18	11	32	33	29	25	36	30	11	6	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	92	93	80	83	85	88	90	96	89	83	32	32	テレビ・ラジオ・読書
移動	76	77	81	86	86	87	84	80	64	76	70	64	移動
その他	63	90	87	86	67	69	82	75	85	85	40	44	その他
	3	2	8	12	4	3	18	10	5	7	12	14	その他
日曜日	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	睡眠
食事	89	90	91	91	100	100	98	97	99	99	98	99	食事
身の回り	83	95	73	82	98	98	96	99	99	99	88	93	身の回り
有償の仕事	28	26	31	29	21	17	26	22	22	19	32	34	有償の仕事
教育	2	4	3	5	24	19	1	2	1	1	3	2	教育
通勤	13	13	21	18	10	9	13	17	19	15	71	77	通勤
買い物	74	90	74	87	86	83	90	99	58	83	19	66	買い物
娯楽	34	29	47	53	14	12	25	22	46	43	16	22	娯楽
娯楽以外活動	18	23	40	43	28	18	30	37	22	24	5	5	娯楽以外活動
スポーツ	1	2	8	8	47	46	5	5	1	1	5	3	スポーツ
余暇など	32	34	12	12	48	43	41	47	49	42	14	4	余暇など
テレビ・ラジオ・読書	69	91	76	78	86	88	94	96	91	87	37	34	テレビ・ラジオ・読書
移動	66	85	87	88	93	91	94	95	89	83	75	71	移動
その他	73	73	82	88	49	47	74	71	83	78	48	48	その他
	5	7	24	28	11	10	14	15	18	23	15	17	その他

出所: CTUR・MTUS, 総務省統計局「社会調」より筆者が計算。

付表 7 性、フルタイム労働者、行動分類 (15 分) 別行動者平均時間 (1980 年代)

	英国 (1987年)		英国 (1985年)		ドイツ (一)		ノルウェー (1981年)		イタリア (1979/80年)		日本 (1986年)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
平日												
睡眠	445	464	458	457	-	-	466	461	468	468	459	439
食事	81	56	78	74	-	-	68	62	69	74	91	90
身の回り	96	77	55	74	-	-	37	43	48	49	53	74
有償の仕事	510	466	486	441	-	-	500	438	518	419	545	472
教育	193	175	187	192	-	-	153	193	172	159	307	339
通勤	58	53	57	51	-	-	52	48	67	54	81	69
家事	91	110	88	115	-	-	113	104	81	180	79	180
買い物	58	62	50	54	-	-	61	54	55	56	218	164
娯楽	63	84	59	72	-	-	66	92	67	74	69	110
ボランティア活動	67	48	75	72	-	-	138	133	92	143	132	132
スポーツ	83	62	60	61	-	-	84	70	74	71	95	83
余暇など	133	133	98	101	-	-	141	159	118	149	306	304
テレビ・ラジオ・読書	158	139	155	131	-	-	139	113	138	105	138	132
移動	67	66	70	64	-	-	63	57	57	55	68	68
その他	78	75	45	43	-	-	82	92	99	121	88	82
土曜日												
睡眠	482	482	500	505	-	-	505	505	515	490	482	442
食事	79	74	85	67	-	-	88	73	84	77	94	94
身の回り	74	91	58	74	-	-	40	45	58	55	58	75
有償の仕事	328	326	411	283	-	-	387	387	403	371	505	435
教育	169	131	207	95	-	-	168	110	212	75	331	313
通勤	49	46	60	37	-	-	42	69	51	69	77	65
家事	141	176	147	188	-	-	168	202	87	230	100	178
買い物	92	121	84	99	-	-	77	78	99	105	223	194
娯楽	93	85	86	96	-	-	69	108	67	118	108	128
ボランティア活動	70	72	60	80	-	-	214	165	162	98	162	131
スポーツ	137	65	148	103	-	-	103	81	111	70	183	118
余暇など	229	226	179	164	-	-	227	242	219	177	479	415
テレビ・ラジオ・読書	229	193	214	166	-	-	206	174	163	118	168	132
移動	107	96	100	113	-	-	69	77	87	81	107	85
その他	120	69	51	43	-	-	128	51	155	50	115	109
日曜日												
睡眠	537	562	531	539	-	-	576	565	555	546	512	487
食事	87	85	86	84	-	-	94	88	92	88	100	101
身の回り	77	83	64	76	-	-	38	48	68	65	64	84
有償の仕事	324	295	344	360	-	-	243	293	311	293	448	414
教育	135	151	265	84	-	-	178	93	138	64	381	287
通勤	45	37	67	43	-	-	54	40	44	66	71	63
家事	164	179	137	168	-	-	130	168	62	211	125	214
買い物	50	63	44	55	-	-	48	60	34	14	337	324
娯楽	87	83	44	70	-	-	97	128	120	136	161	169
ボランティア活動	84	47	52	80	-	-	106	113	53	42	172	141
スポーツ	129	100	144	101	-	-	118	109	131	139	209	191
余暇など	197	207	161	152	-	-	262	244	289	233	606	534
テレビ・ラジオ・読書	234	197	217	183	-	-	189	158	199	129	224	163
移動	90	93	90	78	-	-	91	74	117	107	115	98
その他	103	107	67	100	-	-	128	72	52	51	155	137

注：ドイツの 1980 年代のデータはない。
出所：CTUR・MTUS、総務省統計局「社会調」より筆者が計算。

付表 8 性、フルタイム労働者、行動分類(15分単位) 別行動者平均時間(1990年代)

	英国(1995年)		米国(1994/95年)		ドイツ(1991/92年)		ノルウェー(1992年)		イタリア(1989年)		日本(1996年)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
平日												
睡眠	462	465	427	467	445	458	452	467	482	476	448	430
食事	54	49	67	68	67	60	65	60	103	92	92	94
身の回り	43	54	43	60	46	53	36	44	54	52	65	83
有償の仕事	542	498	528	504	518	467	497	437	474	397	567	484
教育	151	121	226	124	142	128	147	228	132	143	340	319
通勤	72	64	66	54	55	53	55	50	0	0	79	64
家事	93	106	87	108	83	130	111	144	65	196	71	136
買い物	76	83	60	57	43	43	41	44	48	56	200	143
娯楽	76	106	66	81	55	80	79	102	55	64	103	244
ボランティア活動	121	141	133	86	65	45	146	140	90	67	139	131
スポーツ	128	90	119	73	72	75	75	71	57	57	104	84
余暇など	171	187	160	127	104	103	141	152	109	66	304	341
テレビ・ラジオ・読書	151	134	163	140	128	108	137	111	128	103	148	129
移動	70	61	65	52	51	53	60	63	79	61	93	68
その他	49	36	97	60	30	30	42	65	70	57	63	62
土曜日												
睡眠	565	500	476	454	562	518	484	503	568	487	476	453
食事	60	55	81	83	88	86	89	90	106	96	94	94
身の回り	41	51	44	57	50	56	40	48	61	65	64	81
有償の仕事	362	531	450	499	339	271	351	297	402	351	510	444
教育	69	0	210	90	114	144	72	134	166	341	404	341
通勤	54	44	50	40	45	40	55	40	0	0	70	59
家事	130	181	178	203	179	239	154	188	110	238	0	179
買い物	92	150	89	91	52	54	51	69	78	85	109	184
娯楽	250	110	73	98	77	108	90	108	68	67	268	273
ボランティア活動	153	171	40	152	81	48	160	310	115	78	189	157
スポーツ	160	130	180	143	103	83	107	80	101	74	178	136
余暇など	265	277	244	192	210	189	249	237	174	145	572	491
テレビ・ラジオ・読書	247	183	230	120	179	163	210	164	139	112	202	165
移動	84	56	108	83	60	74	68	71	83	74	115	100
その他	47	62	251	0	5	90	43	22	57	58	112	97
日曜日												
睡眠	523	552	514	522	580	569	549	542	568	555	512	489
食事	69	70	64	92	93	87	87	78	109	104	102	102
身の回り	49	53	43	59	49	59	42	54	63	66	71	90
有償の仕事	327	347	482	446	214	219	311	277	345	346	468	427
教育	478	61	308	74	93	74	77	118	118	106	327	317
通勤	48	25	47	34	52	48	45	67	0	0	65	61
家事	159	226	141	203	122	193	143	180	98	241	113	201
買い物	117	57	53	83	25	27	30	44	29	42	265	234
娯楽	190	78	111	82	92	103	102	87	74	69	264	304
ボランティア活動	100	525	220	92	66	45	125	143	81	62	212	187
スポーツ	181	111	168	85	111	86	106	108	135	107	209	180
余暇など	305	207	262	210	202	262	249	232	233	195	630	551
テレビ・ラジオ・読書	229	218	267	226	184	153	199	168	180	133	264	191
移動	103	97	90	95	73	78	81	88	100	86	116	104
その他	57	26	110	140	13	45	69	69	61	57	127	113

出所：CTUR・MTUS, 総務省統計局「社会調」より筆者が計算。

付表9 性、フルタイム労働者、行動分類(15分頻) 別行動者平均時間(2000年代)

項目	英国(2005年)		米国(2005年)		ドイツ(2007/02年)		ノルウェー(2000年)		イタリア(2002/03年)		日本(2006年)		(単位:分)
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
平日													
睡眠	453	465	464	473	445	457	447	459	463	466	475	484	
食事	57	52	60	53	34	77	56	77	92	85	90	91	
身の回り	64	52	46	61	49	57	34	44	57	56	66	68	
有償の仕事	489	464	519	479	486	454	514	451	491	435	575	506	
教育	215	144	208	183	117	143	251	164	154	201	349	385	
通勤	66	61	21	42	67	59	57	55	66	67	81	67	
家事	75	92	91	98	90	114	98	122	75	165	61	136	
買い物	72	73	45	52	56	62	37	40	53	55	164	148	
娯楽	112	132	83	91	59	72	64	114	72	96	190	234	
ボランティア活動	91	176	101	88	68	54	145	132	131	116	148	104	
スポーツ	72	55	74	68	87	76	102	77	95	80	94	81	
余暇など	103	160	106	105	109	108	124	122	122	106	403	398	
テレビ・ラジオ・読書	159	131	147	137	132	117	142	127	121	99	139	127	
移動	67	70	61	63	56	54	70	64	57	52	92	71	
その他	68	52	40	60	69	63	27	24	67	67	67	64	
土曜日													
睡眠	481	503	510	528	491	495	487	490	483	470	468	453	
食事	72	66	63	54	116	119	75	72	100	93	98	97	
身の回り	69	57	48	61	56	64	38	50	67	71	74	91	
有償の仕事	402	403	393	363	316	293	303	303	401	375	518	455	
教育	90	122	226	164	108	105	102	132	193	193	360	333	
通勤	47	36	48	37	58	51	43	47	58	53	70	58	
家事	102	132	162	166	174	163	152	174	125	219	99	168	
買い物	112	143	73	95	69	78	57	66	86	93	185	183	
娯楽	260	150	124	111	86	70	94	99	88	102	240	302	
ボランティア活動	204	30	160	165	86	70	216	95	217	180	211	182	
スポーツ	91	91	133	108	107	101	102	75	120	96	166	115	
余暇など	281	236	209	191	197	204	243	255	203	172	577	501	
テレビ・ラジオ・読書	260	186	211	196	176	154	214	179	199	167	465	168	
移動	103	90	93	98	77	75	93	69	95	82	121	108	
その他	71	75	77	81	74	51	27	28	65	60	122	106	
日曜日													
睡眠	551	564	564	575	542	564	597	594	558	551	505	481	
食事	70	67	67	58	125	123	71	76	111	105	102	102	
身の回り	47	61	51	63	55	63	38	48	66	66	80	99	
有償の仕事	398	356	305	292	246	235	270	267	403	356	466	445	
教育	58	178	121	131	106	109	56	71	159	206	365	401	
通勤	47	35	44	36	59	77	48	55	61	56	66	56	
家事	125	140	171	187	118	177	142	163	108	219	102	184	
買い物	99	71	61	73	42	41	27	23	59	64	245	245	
娯楽	151	139	104	97	83	88	101	137	96	112	268	297	
ボランティア活動	365	385	122	114	74	64	91	168	168	121	242	204	
スポーツ	60	95	120	75	110	101	111	82	131	142	161	142	
余暇など	253	216	177	168	171	157	195	215	198	173	618	538	
テレビ・ラジオ・読書	221	187	247	189	201	166	207	142	175	126	246	184	
移動	82	104	84	78	81	81	87	68	98	83	119	110	
その他	62	127	114	125	68	70	43	36	62	59	134	112	

出所: CTUR・MTUS, 総務省統計局「社会調」より筆者が計算。